

- 24 「まことにおだいでせうけれども。」
- 25 それでは、今のことを續けて話してごらん下さい。
- 26 まだおちてゐる所がありませんか。
- 27 「いつまでもといふこと、」
- 27 誰かはじめから續けてお話ししてごらん下さい。
- 27 「二名位」
- 28 皆わかりましたか。手紙を書くには、もうこれでよいのでせうか。 「月日または姓名」
- 29 月日または姓名を書く位置を問答す。
- 30 一所に鉛筆をとつて丁寧に書きなさい。
- 30 机間巡視して、児童の間に應じ、児童の姿勢、机上の整頓に注意す。
- 31 書き終りたるものには、一二回讀ましめ、最後の児童に集めしめ、教師の許に差し出さしむ。

二十二

山形縣師範學校

尋常科第五學年綴り方科教案

教材

初市の模様を知らせる手紙 (崇敬體 口語文)

目的

初市ノ模様ヲ知ラセル文ヲ綴ラシメ、主トシテ崇敬體口語文ノ報知文ヲ綴ル事ヲ練習セシムルニアリ。

教具

小黑板

教法

教授前之準備

一月八日(土曜日)

明後日ハ十日市(初市)デス。サウシテ、今年カラ新曆デスルコトニナツテ、市ノ商業會議所デハ、五萬本ノ福引ノ籤ヲ出スサウデ、ヒドク混雜シマセウカラ、皆サンガ怪我ナドスルトワルイノデ、學校ノ方ハ臨時休業スルコトニナリマシタ。皆サンハ休ミダツイツテ、籤ヲ貰フ方ニサワギニ行ツテハナリマセン。ヨク氣ヲ付ケテ怪我ナドシナイ様ニナサイ。

尙此次ギノ綴り方ニハ、初市ノ模様ヲ知ラセル手紙ヲ綴ツテ貰ヒマスカラ、市神様ノアタリヤ、七日町邊ノ様子ヲ是非見テオ置キナサイ。

一 文題提出

此前皆サンニ初市ノ模様ヲヨク見テ來ルコトヲオ約束

シマシタネ。……ソレデ、今日ハ初市ノ模様ヲ知ラセル手紙ヲ綴ツテ貰ヒマス。

二 準備

宛名ハ大森先生トシマセウ。大森先生ハ昨年ノ初市マデ見ラレタワケデスガ、今ハ西田川郡十坂小學校ニ御出デス。ソシテ、口語文デ書クコトニシマセウ。

書キ方ニツイテハ、今日先生ハ別ニクハシク御話ヲシマセンカラ、ヨク順序ヲ考ヘテオ書キナサイ。先ヅ一番サキニドローイフコトヲ書イタラヨイデセウ。誰サン……サウ、其次ギニハ……其次ギニ……サウト、順次書板ス。

1 時候安否 2 初市ノ模様 3 結びノ言葉
大體コノ順序デ書イタラヨイデセウ。此ノ中デ最モ大事ナノハドレデスカ。……サウ、初市ノ模様デスネ。ソナラ充分注意シテ、ドンナ事ヲ書ケバヨイカ考ヘテオ書キナサイ。次ギノ事ニハ注意スル様ニ……

三、記述上ノ注意(小黒坂ニ書キテ提出ス)

- (1) 記述スベキ事柄ヲヌカサヌコト、
- (2) 同ジコトヲクリカヘサナイ事、
- (3) 假名ハ平假名ニテ書クコト、

口語體書簡文に關する教案

四 記述

- (4) 漢字假名ニ注意スルコト、
- (5) 日附、發信者、受信者ノ名ヲ落サヌコト、

此際机間巡視ヲナシ兒童ノ質問ニ答フ。

二十三

山形縣女子師範學校

尋常科第二學年綴り方教案

教材

綴り方帳をかりる手紙

作例

きのふ、びよーきのため學校をやすみまして神武天皇のつづりかたをかきませんでしたから、どうぞ、あなたのつづりかたをよーを、あしたまでかしてください

月 日 何 某さま 何 某

目的

該教材ニヨリテ、借用文ノ形式(要項)及、ソノ用語ヲ知ラシメテ、以テ思想ヲ確實ニ發表セシム。

教具

ナシ。

教法

第一豫備及文題指示、

一 今日ハつづりかたちよゝをかりる手紙(書板)トイフ題
デ、綴ツテ項キマス(文題指示)。

二 思想整理、

皆サンハ、綴方帳ヲカリニ行クトキニ、何トイッテ参
リマス。生……つづりかたちよゝをかりて下さい。又
ハ、どうぞ綴方帳をかりて下さい等、種々アルベシ。
茲ニ於テ、ソノ答ハドテラガヨキカラ兒童ニ批判セシ
メテ、人ニ物ヲ借リニ行クトキハ、可憐ナル言葉ヲ使
フコト、最モ必要ナル條件ナルコトヲ知ラシム。ヨリ
テどうぞト書板ス。

次ニ、コレダケデ、其人ハ直ニ貸シテクレルデセウカ。
何カ足ラヌ所ハアリマセンカ。生……あしたまで(書
板)かして……トイフコトガ必要ナルコト、茲ニ於テ
借リルトキハ、ソノ日數ヲ云ヒヤルコトノ大切ナルコ
トヲ知ラシム。

ソコデマア、餘程ヨクワカリマシタガ、アノ人ハナゼ
私ノ綴方帳ヲ借リニキタノデアラウ。借リナイデモ間
ニアフニ、……ト不思議ニ思ヒマスカラ、ソノワケヲ

コレノト述ベテアゲルト、猶更心持ヨクカシテクレ
マスカラ、ソノワケヲカクコトガマタ必要デス。茲ニ
於テわけト書板ス。

ドンナトキニ、綴方帳ヲ借リニ参リマスカ。生……休
ンデ書カナイトキ、サウデス。ソレデハコノ間綴ツタ
神武天皇(書板)ニキマセウ。ドウイフトキニ學校ヲ
休ミマスカ。生……病氣ノトキ、用事ノアツタトキ、
等種々アルベシ。ヨリテびよゝきト書板ス。
コレデ、外ニ書キタイコトガアリマセンカ。生……書
板事項、

つづりかたちよゝをかりる手紙

1 びよゝき

2 神武天皇

3 あしたまで

4 どうぞ

ソコデ、物ヲ借リルトキニハ、ソノワケト日數トガイ
チバン必要ナルコト、ソレニ言葉ハドコマデモ可憐ナ
ルベキコトヲマナバシム。

以上ラツツケテ、一兒童ニ發表セシム。(但シヤ、優等
生ニ言ハシム)。

コレニツイテ、批正ヲ與へ、前ニノベシ事項ヲモラサ
ズ、談話シ得タルカラ檢シ注意ヲ與フ。

三 談話練習、

外三四名ニ發表セシム。注意ハ前ト同様。

第二提示

記述ヲ命ズ。

コノ際手紙ノトキニハ、本文ヨリ一寸程放シテ、一字サ
ゲテ月日ヲカキ、自分ノ名ハ月日ノ下ニ上ラヌ様ニ書キ
宛名ハ月日ヨリ一寸程放シテ、一字サゲテサマヨツケテ
書クコト。

及、ソノ姿勢、文字ニハ注意シテ書クコトナドヲ注意ス。
出來タル人ハ、何回モヨミテ、ヒトリデオ直シナサイ。
教師ハ時々机間巡視シテ、右ノコトヲ注意スベシ。

二十四

秋田縣女子師範學校

尋常科第五學年

題目

都に居る兄への返事

要旨

口語體書簡文に關する教案

内容 家庭實況の報知、
形式 細寫的に綴らしむ、

教法

一 誦讀 都の兄よりの手紙、

二 思想開發 報すべき事項、

三 模範文の誦讀、

四 順序整頓(段落の構成)、

五 語句の修辭、

(イ) 手紙到着せるときの家内の喜びにつきて、

(ロ) 寒さを如何にあらはすべきか。

(ハ) 父母の起居及び自分の起居につきて、

六 話し方練習、

七 記述推敲、

二十五

三重縣女子師範學校

尋常第六學年第三學期國語綴り方科教案

題目

兵營内にある兄の許に送る

目的

學級遠足により、兵營を參觀したるところに基き、右の文題を課して、兒童の兄が入營して、兵營内にあることを假想せしめ、目次法によりて、これに送る文を綴らしむ。…二時間完結の豫定。

教材

きのふけふは、寒さが、ことに、きびしくございますが、兄上様には、おさはりはございませぬか。内の方は、皆々、無事に暮してまいります。わたくしは、毎日、弟といっしょに學校に出て勉強いたしてまいります。どうぞ、御安心なすって下さいませ。

兵營の内は萬事に、きびしいきまりがございませぬこと。また、ごきげなくついでございませう。ことに、このごろの寒さに、日々の御練兵は、御苦勞のほど、さこそと、御察し申し上げます。

この、くつしたは、さきごろ、學校での手工で、こしらへましたのでございませぬが、このほど、先生からいただきましたから、御送りいたします。どうぞ、おはき下さいませ。また、この清書は、弟が、このほど書きましたのでございませぬ。兄上様に御目にかけないと、申してまいりますから、これもお送りいたします。

なほ、くれぐれも、おからだを御大切にすって下さいませ。かしこ。

方法

一 目的指示………文題の提出

二 思想の整理

イ 問答により、目次及びその順序、輕重(中心思想を何れに措くべきか)を決定して、左のごとく目次を板書す。

安否をたづねること、

家内の様子を報ずること。…特に自分の様子、苦勞をさつし、これをなぐさむること。…手製の物品もあらば、これを贈ること。

右の目次にしたがひ、これを統一したる全體として如何に發表するが、最も明瞭にして妥當なるかを考へしむ。

これが、參考補助として、範文(教材欄記載の)を朗讀す。この際真情の發露に最も力を致すべきこと、範文がこれに對する用意につき、簡單に説明す。

三 記述

イ 各自練習帳に記述せしむ。
ロ 記述したる各兒童の文を朗讀せしむ。

(以上一時間)

四 處理

イ 各自、その原文を反覆精讀して、これを推敲訂正せしむ。…巡視して訂正すべき要點を指示す。
ロ 兒童をして自己訂正の結果を朗讀せしめ、相互に批評訂正を試みしむ。
ハ 更に各自訂正の上、記帳提出せしむ。

ニ 右の成績はこれを時間外に檢閲し、批點を施して返附し、家庭に於て重ねて自己訂正をなさしめ、更にその結果を檢す。

(以上一時間)

二十六

愛知縣第一師範學校

尋常科第三學年級方教案

第四學期 第八週 金曜日 第二時

教材

(文題)運動會に友だちを案内する手紙

(二時間ニ渡リテ完了)

要項

一 範文法

二 口語崇敬體平假名

三 記述要項

(一) 冒頭 運動會ノ時日

(二) 自己ノ参加スル運動

(三) 結尾 友人ノ來觀ヲス、ム

教具

口語體書簡文に関する教案

模範文ヲ書キタル小塗板

聯教

教法

目示

春ノ運動會モ近寄キマシタネ。今日ハ運動會ニ、オ友達ヲ誘フ手紙ヲウマク作ツテ貰ヒマセウ。

豫備

一 若シ皆サンガ手紙ヲ出サナイデ、オ友達ニ逢ッテ口デ言フ場合ニハ、何ト曰ツタラヨイデセウカ。

(私共ノ學校デハ、コンドノ日曜日ニ、春ノ運動會ヲシマスカラ、オヒマガアリマシタラ、ドウゾオ出デクダサイ。)

二三名ノ兒童ニ曰ハシム

二 皆サンガソウ言フト、オ友達ハ「有リ難ウ」トカ、何トカ言ツテ御禮ヲ云ヒマスネ。

ケレドモ、只コレ丈ケノコトヲ言ツタバカリデハ、運動會ニドンナ事ヲスルカ解ランカラ、オ友達ハキツト其ノ事ヲ尋ネルデセウ。

何ト云ツテ尋ネルト思ヒマスカ、
(アナタノ組ハドンナ遊戯ヲナサイマスカ)

其ノトキ皆サンハ何ト言ツテ答ヘマスカ、
 (私ドモノ組ハ、徒手體操トボール送り競争トライタ
 シマスノデ、皆今カライッショウケンメイデケイコヲ
 シテキマス。外ノクミト一ショニナツテスルユウギ
 デハ、國旗競争ヤ堡壘落シナドガアリマス。梅ノ花
 行進ハ、ゼンタイノモノガソロッテスルコトデゴザ
 イマスカラ、ヨクソロヘバ見事デアラウト思ヒマス)
 三 モウコレデ大體ドンナ事ヲスルカト云フコトガワカ
 ヲタカラ、オ友ダチニ「見ニ來テ下サル様」ニ言ハナ
 ケレバナリマセンネ、何ト言ヒマスカ、
 (オ天氣ガヨクテ、オヒマガゴザキマシタラ、ドウゾ
 オイデクダサイマセ。マツテキマス。)
 四 オ友達ニ逢ツテ言ヘバ、オ友達ガ知リ度イト思ツタ事
 ハ尋ネルカラ、ワケガヨクワカリマスガ、手紙デハ
 スグ尋ネル事ガ出來ナイカラ、尋ネナイデモヨクワ
 ケガワカル様ニ書カナケレバナランノデス、
 五 先生ガ作ツタ文ヲ見セテ上ゲマセウ、
 示範
 一 模範文提出
 (小塗板ヲ掲ゲ、模範文ヲ低音讀セシム。)

不審ヲ質サシム。
 讀ンデゴラン、(三名)
 コノ文ハイクツニ分ケル事ガデキマスカ。(三ツ)
 第一ハドコマデデスカ。第二ハ 第三ハ
 初メニハ何ノ事ガ書イテアリマスカ
 (今度ノ日曜日ニ運動會ガアルトイフコト、)
 次ニハ、何が書イテアリマスカ。
 (自分ガスル遊戯)
 其ノ次ハ、
 (見ニ來テクダサイトイフコト、)
 通ジテ大體ノ意味ヲ言ハシム。
 モウ一度讀ンデ貰ヒマセウ。
 左ノ語句ノ用法ヲ知ラシム。
 1 おひまがございましたら、(崇敬ノ意味ヲ有ス)
 2 よくそろへば見事であらうと思ひます。(稍々謙遜
 ノ意味ヲ有ス。)
 模範文ヲトリ去ル。
 話シテゴランナサイ。(二名)
 皆自分ニ口ノ中デ言ツテゴランナサイ。(一回)
 二 記述

(姿勢ニ注意)
 範文ニ模シテ記述セシム。
 三 推敲
 左ノ點ニ注意シテ讀ミ返サシム。
 一、脱字 二、誤字 三、同一語ノ反覆
 四 結果ノ處理
 1 練習帳ヲ集メシメ、時間外ニ於テ簿上訂正ヲナス。
 2 次ノ時間ノ初メニ批評ヲナス。
 二十七
 愛知縣第二師範學校
 尋常科第三學年國語(綴方)科教授案
 第三學期 三月八日 火日曜 第三時
 題目
 繪本をおくる手紙
 目的
 他所ヨリ多數送附シ來レル繪本中、二冊ヲ友人ニ分與シ、
 送附スル場合ノ書簡文ヲ理解セシム。
 教具
 數冊ノ繪本(郵送シ來レル様ニ準備シ置クコト、)

教材連絡
 (1) 讀本卷六八十三頁ノ書簡文(往信) 共ニ形式上ノ連絡
 (2) 既習材料……………寫眞をおくる文)ヲ計ル
 教法
 一 豫備
 (イ) 諸子ノ中ニテ、兄ガ東京ニ行キ居ルモノアリヤ…………
 何ノタメニ? 甲ハ? 乙ハ?
 (ロ) 其兄ノ許ヨリ品物ヲ郵送シ來リシコトハアラザリシ
 カ…………何ヲ? 甲ハ? 乙ハ?
 目的指示、今日ハ…………(假定)サル兄ノ許ヨリ繪本ヲ澤山
 送附シ來レリトセン。其中ノ二冊ヲ友人ニ分
 與スル場合ノ手紙ヲ書カン。(ヨク分ル様ニ話
 ノ様ニ…………)
 二 教授
 A 思想上ノ整理(思想ノ理解)
 一、在東都ノ兄ヨリ繪本ヲ送り來ル。(教具
 ……繪本提供)
 (1) 述ブベキ事項 二、其中ニハ種々ナルモノアリ…………(繪本
 ……ヲ見シメテ問答スルコト)
 三、其中ノ二冊ヲ分與スルコトトセン。
 (2) 筆者ノ立脚地…………兒童トシテ、兒童ノ立場ニテ認ムル
 ……モノナルコト、

友人ナルコト、

(3) 對者ノ立脚地 遠隔ノ地ニアルコト、(時候、安否ノ必要)

(4) 右ノ事項ニツキテ不審アラバ尋ネヨ。

(5) 右ノ事項ヲ語レ。(始メ分解的、後ニ総合的)

B 形式上ノ整理(發表スベキ形式ノ工夫、)

・此思想ハ如何ナル形式ヲ運用セバ、發表シ得ベキカノ工夫

(一) 讀本文章ノ利用、

(二) 寫真をおくる文ノ利用、

C 記述

D 板上訂正

早ク綴リ終リタル中等生ノ文ヲ板書シ、兒童各自ノ作ヲ元トシテ覽見ヲ述ベシメ、訂正ヲ行フ。

E 自己訂正

F 草稿帳ノ提出 (右 第一時)

三 應用

思想形式共ニ各自ノ工夫ニ任セタル自作文 (右 第二時)

成績

思想ハ一般ニヨク了解シタルニヨリ、大體ニ於テ遺憾ナク表出セラレタリ。形式ニ於テモ、只、二三、アル部分ニツキテ缺陷アリシノミニテ、大體ニ於テ、讀本文章ノ構想及既習文ハヨク運用セラレタリ。カカル種類ノ「おくる文」ニツキテハ、理解シタルモノト認ム。

豫定文案

このころは、たいそ、お寒うございますが、どなた様もおかひりばございませんか。

このころ東京の兄から、ふ本を、たくさんおくりつけてくれました。その中には、めづらしいのや、おもしろいのや、いろいろ、ございます。それで、その中の、二まつ、あなたにさしあげますから、どうぞ、ごらんくださいませ。

二十八

尋常科第六學年男綴方教案
三月十四日 月曜日 第四時
静岡縣師範學校

教材
中學校規則書返却督促の手紙

目的
1 督促文の綴方、

2 督促文ヲ書ク時ノ注意事項、

(イ) 督促セザルベカラザルニ至リシ事情ヲ、ナルベク明ニスベキコト、

(ロ) 對者ノ感情ヲ害セザル様、用語ヲ慎ムベキコト、

3 葉書ノ書方ノ練習、

準備
作文葉書四十枚、葉書書方ノ模範ヲ示セルモノ、

教法

(一) 目的指示
今日ハ他人ニ貸シ置キタルモノ、返却方ヲ、督促スル手紙ヲ綴ラン。

(二) 事情ノ指示
1 二月中ニ友人石川ニ中學校規則書ヲ貸シ與ヘタリ。
2 其後既ニ一ヶ月ヲ經過スルモ、未ダ返却セラレズ。
3 突然ソレニツキテ、調査スル必要生シタルヲ以テ、石川某ニ返却方ヲ催促セントスルモノナリ。

(三) 思想整理

1 督促狀ノ注意條項ヲ、問答法ニヨリテ定ム。(目的欄)

2 右ノ條件ニ照シツ、左ノ通り思想ノ整理ヲナス。

(イ) 始メニ先ヅ何ト書クベキカ。(時候挨拶不要)

かいて御用立申して置きました中學校規則書は、もう御覽すみになりました。

縦線ヲ附シタル語ヲ注意シテ指導ス(以下同文)

次ニ何ト書クベキカ。

(ロ) もし御覽すみになりましたら、どうしてもそれについて調べなければわかん事ができましたから、はなはださいそくがましくて申しかれますが、一時御返却下さいませんか。

次ニハ

また御入用の節は何時でも差上げます、から、御えんりもなくおつしやうして下さい。どうぞおしからず。

3 修述數回

(四) 記述
直ニ葉書ニ認メシム。

(五) 備考
時間ノ終リニ、成績品ヲ集メ、訂正添削ノ上返附シ、次ノ時間ニハ之レヲ候文體ニ復文セシムルモノトス。

二十九

静岡縣女子師範學校

題目
友人に雑誌を送る手紙

目的

珍話ニ富メル雑誌ヲ、友人ニ送ルノ情ヲ起サシムルト同時ニ、之ガ贈呈ノ手紙ヲ口語對話體ニ綴ラシメ、併セテ贈呈文ノ形式ヲ確メントス。

範文

拜啓餘寒がまだ厳しいですが君には御座りなく御勉強ですか僕は相変わらずの元氣で日通學して居りますさて僕は昨年の夏から月少年世界を讀んで居りますが今月には色々面白い事が澤山載って居りますわけても後藤先生の理化の實驗の御話は大層面白くたぬに於て其上實驗が出来るので是非君にも御目にかけたいと思ひます讀みふるして失禮ですが差上りますから御退屈の時にも讀んでくれたまへ學藝會などによい材料かと思ひますいよ／＼三月に入つて卒業も近くなつたので御互に嬉しいではありませんかもう暫くですから一生懸命勉強させよう 勿々

教法

第一段 思想整理

目的指示

今日ハ友人ニ雜誌ヲ送ル手紙ヲ綴ラン。

(一) 事實ノ假定(兒意ト談合ノ上)

- 1 對手ハ田舎ノ親戚ニテ、親友ニシテ常ニ贈答ナドナシ居ルコト。
- 2 少年世界ハ昨年ノ夏頃ヨリ、月々讀ミ居ルコト、
- 3 然ルニ、本月ノニハ色々面白キ事柄アリ。殊ニ後藤先生ノ理化實驗云々ノコト、(範文記述ノ程度ニ從ツ

テ、)

(二) 贈呈文ヲ綴ル上ノ注意、

既授ノ贈呈文ヲ追想セシメ、左ノ點ニツキ、注意スベキ事ヲ問答シテ確ム。

(三) 用件ニツキテ腹案、

- 1 然ラバ、本日ノ手紙ニ於テハ、贈答ノ動機ハ何ト述ブベキカ。
- 2 謙辭……………(暫時復案)
- 3 一生(中等生)ニ言語ニ表出セシム。教師他生ハ俱ニ批評シ、加除訂正ナシ、要件談合ノ上、更ニ全生ニ自由ニ腹案セシム。

(四) 前文及結尾ニツキテ、

- 1 本日はあいさつ(前文)ハ書クベキカ否カ。……記載スベキコトニ決セントス。
- 今頃ノ時候ハ何ト書クベキカ。……餘寒ノ語ヲ教フ。

- 2 むすび(結尾)ノ事項ハ、……教師ヨリ提示、卒業間際ニナリシ故、之レヲ結尾ノ事柄トシテ、其文句ヲ考ヘヨ。
 - 3 以上二項ニツキテ考ヘヨ。
 - 4 大體ニツキテ腹案セヨ。
 - 5 贈呈文ノ形式ニツキテ、以上ノ事實ニヨリ、贈呈文ニツキテ心得ベキコトヲ問答シ明カニス。
- 第二段 記述
- (一) 記述ヲ命ズ。(口語體ニ發表スベキ注意ヲ與フ。)
- 机間巡視……記述自己訂正ノ終リタルモノヨリ、面前批評ヲ加フ。
- 第三段 批評
- (一) 朗讀
- 優、中生ニ讀マシメ批評ヲナス。
- 自己訂正
- (二) 朗讀批評ニ鑑ミ更ニ自己訂正ヲサシム。

滋賀縣師範學校

尋常第四學年級方教授案

題目

時好品展覽會見物に誘はれし返事

時間

一時間

要旨

返事文の認め方、及、返事の手紙についての一般の注意を知らしむ。

方法

前回に作爲せし誘引文に對する返事を、應諾謝絶の二様ニ作爲せしめんとす。(讀本形式に依ること同前)

教順

- 一 目的指示、
- 二 誘引文(前回成績中の優等なるもの)朗讀、
- 三 理會程度の検討、
- 四 決意(謝絶若しくは應諾の二様、各自の意志によりて決定、)
- 五 讀本によりて返事文形式の模索、
- 六 變更敷衍を要する箇所を検討、
- 七 作爲

- 八 朗讀(謝絶、應諾の場合一つづつ)
- 九 批評、
- 一〇、修正
- 一一、清書、

三十一

岐阜縣師範學校

尋常第五學年教案

題目

繪はがきを友人に贈る手紙 (文體 口語體)

目的

贈遺ノ文ノ形式ヲ知ラシメ、兼テ他稱ニ使用スル自己ノ親族ノ稱謂ニ熟セシメントス。

文案

韓國にいつてゐる叔父から此頃先方の景色風俗等を寫した繪はがき三十枚送てよこしました其七枚は私の繪はがき帖にもありますからあなたに差し上げます父にも相談しましたらわかれてあなたの地理標本を集めておらっしゃることを知つてゐますので至極よからうと勸めてくれましたその申渡の三十枚の繪はがきを見において下さい風俗畫の中には實におもしろいものがあります

月 日
野村文次郎様

木村貞太郎

方法

一 目的指示

韓國在住ノ叔父ヨリ、先方ノ風景風俗ヲ寫セル繪はがきヲ送り來レルニヨリ、其中數枚ヲ友人ニ贈與センコトヲ假定シテ、贈遺ノ文案ヲ構成セシム。此ノ際特ニ自己ノ親族ヲ呼ブ言葉遣ヲ吟味スベキコトヲ注意ス。三名ノ兒童ニ腹案ヲ口述セシム。

二 兒童ノ腹案ヲ批評訂正スル際、特ニ左ノ事項ニ注意ス。

(甲) 贈遺形式

(イ) 兒童ノ境遇トシテ、漫リニ贈遺スベカラザルコト、兒童ノ境遇トシテ、他人ニ贈遺セントスルトキ、父母兄弟等ノ許可ヲ受クベキコト、

(ハ) 他人ヨリ惠マレシモノヲ、更ニ他ニ贈遺スルニ當リテハ、相當ノ理由ナカルベカラザルコト、

(ニ) 贈遺セラル、人ノ感情ヲ和ゲ、意氣ヲ鼓舞スルニ務ムベキコト、

(乙) 稱謂及言葉遣ニツキテ、

(イ) 自己ノ親族ノコトヲ他稱トシテ用フルトキノ注意 兒童ノ陥リ易キ誤謬、

三十二

福井縣師範學校

尋常科第四學年級方教案

題目

入營を祝ふ

時間

二時配當(第一時日)

入營の祝すべきことを知らしめ、祝賀文の書き方を收得せしむ。

作例

あなた様には此の度徴兵検査に合格なさつてあつたは、いよいよ御入營なさる、さうでございますが、日ごろのおのぞみか、なほせられたこと、何よりおめでたうございます。御ふた親様はじめ皆様どんなに、およろこびのこと、でせう。これから、御入營になると今までつねづねおやしなひになつたじよ、ぶなおからだ、元氣をなもつて、勇ましくおはたらきになり日本男子としてのつとめをおつくしになるかと思ふと私も、ことによるはしう存じます。申すまでもございませぬが、此の上はおからだをおだいに、せつかく、教へなうけられ、十分國家の爲におつくし下さるよ、かけながらおいのり申して居ります。

教法

入營を祝ふ(出題)

板書事項

韓國にいつてゐる叔父さんから、……送つて下さいました。おとうさんにも伺ひましたら、……とおっしゃいました。

四 文案ヲ提示シテ、特ニ前記注意事項ニツキ説明ス。

五 自己ノ親族ノ稱謂、並ニ言葉遣(他稱)ト、他人ノ親族並ニ言葉遣(他稱)トノ區別練習、

(イ) あなたのおかあさんから承りましたら、……

…… (他人ノ親族)

叔父から聞きましたら、…… (自己ノ親族)

(ロ) おとうさんのおっしゃいますには、……

…… (他人ノ親族)

父の申すには、…… (自己ノ親族)

(ハ) 三郎さん(對者ノ弟)は、ごきげんでゐらっしゃいます。

…… (他人ノ親族)

三郎は、たつしやでゐます…… (自己ノ親族)

六 兄と共に撮影したる寫眞を、遠方の友人に贈る手紙、

(口語體)ヲ宿題トシテ課ス。

皆さんの知った人で、今度入營した人もありませうね。親類の人や知った人が入營する時には、内の人が餞別を持って、そのうちへ行き、お祝を申しあげ、おわかれの挨拶をしますませう。

目的指示

今日は皆さんの知ってゐる人が入營するので、皆さんからひとつ御祝ひの手紙をだすのです。うまく作りたいものですね。

(一) 一體このよーなときには、どんな挨拶をするませうか。どんなことでも考へた通り云つてごらんさい。

答一 入營なさるのが、おめでたいといふことを云はねばなりません。

二 おわかれの挨拶をせねばなりません

三 まだそのほかに入營なさるのを、およろこび申さねばなりません。もうありませんか。さうですね。このくらひでよろしいませう。それでは、第一にどんなことをかいたらよろしいですか

1 お祝ひのことば

答 入營なさるさうで御めでたいといふこと、それが第一書かねばならないことですね入營するまへには、身體のよしあしを見るませう。それを何と言ひますか。

徴兵検査

さう。この人はそれに合格しましたからあすいよいよ入營するのです。そして又この人は日ごろから合格することを非常のぞみがかつたのですから、よほどおめでたいわけですね。

さういふことを第一いつて、御めでたいといふことをいひませう。

一生をして云はしむ。

次ぎにはどんなことをかきませうか。

答 入營なさるのを、およろこび申すことをかきます。

さう。それをどういふふーにいつたらよろしいませうか。

第一、この人の御ふた親のよろこびはどうませう。

それから、又この人は平生から氣をつけて、じよーぶなからだと元氣とをやしなつて置いたから、都合よく合格したのですね。

だから、かふいふ人は入營したらどうませう。さう。さを勇ましくはたらいて、日本男兒としてのつとめをうまくはたすませう。

さういふことを、こんどは書きませう。むづかしいからうまく云へる様におちついてお考へなさい。

どういつらよいですか。一生をして云はしむ。(言ひまはしに誤謬又は、拙劣なるところあらば、訂正し、足らざる所あらば補ふ。)

それから、またどんなことを書きますか。答 おわかれのことはさう。それにはどんなことを云つたらよ

2 おわかれのことは

みしいませうか。

答 (1) 御からだをおだいに、

(2) 國家のために、つくすよーに、さう。

中すまでもございせんが、此の上は御からだをおだいじになされて、せつかく教をおうけなされ、十分國家のためにおつくし下さるよー、かげながら御いのり申して居ります。

暫時然考せしむ。一生をして初めより概括せしむ。

(二) 各自筆記帳に記述を命ず。

机間巡視

個人につきて誤字、脱字等に注意、文の拙劣なる個所を發見するとき推敲を促す。

(三) 兒童自作のものを、讀ましめて、他の兒童に批評せしむ。當番をして草稿帳を集めしむ。

備考

御からだをおだいに國家のためにつくさ

次の時間には、板上訂正によりて、之を整
理せんとす。

三十三

石川縣師範學校

尋常第六學年綴方教案

題目

紀元節に友を招待する文

目的

招待文ノ一般的形式ヲ知ラシム。

教法、目次法、簿上訂正

一 準備

1 前回ノ「雪見に友を誘ふ文」ヲ讀マシム。

2 右文ノ分解的問答、

3 人ヲ誘フ文ノ主ナル要件ハ?

何をしに(理由)……何處へ(場所)……何時(時日)

4 目的指示

二 思想整理

1 招待文ノ目的

2 記述上ノ注意

イ 人ヲ客トシテ待遇スルタメニ認ムル文ナレバ、最

モ鄭重ナル語ヲ用ヒ、禮ヲ缺クコトアルベカラズ。

ロ 眞心ヲ以テ迎フル意ヲ表ハスベシ。コレガタメ誘

フ文ノ如ク、

「御都合がよければ」御差支なくば」ノ言ヲ用フル

ハヨロシカラズ。「萬障御繰合せ」ナド普通ニ用ヒ

ラル。

ハ 要件ハ誘引文ニ同ジ。

ニ 場合ニヨリテハ、來否如何ノ返事ヲ求メテ可ナリ。

サレド、來否ノ返事ハ寧ロ招待セラレシ人ヨリス

ルガ禮ナリ。ユエニ普通ニハ書カザルヲヨシトス。

三 記述

四 處理、簿上訂正

三十四

京都府女子師範學校

尋常科第三學年綴り方教授案

文題

寒さ見舞の文

目的

見舞文につきて、其内容及形式を知らしめんとす。

範文

この頃は大雪突うございませすが、ちね様始め皆様ご機嫌ようございませすか、御尋
ね申します私の方ではお父さんもお母さんも遠者で私も妹も機嫌よく毎日學
校へ通って一生懸命に勉強してゐますから御安心下さいませ此お菓子(はまこ
と)にお粗末ですがお母さんから寒さ見舞のしるしにちね様におあげして下さい
いとのことですからお受下さいませ

宛 名
月 日 名

方法

前の綴り方の時には、雪の文章を作りましたね。皆大へん
よく出来てゐました。

目的指示

今日はこんな寒い日に、をち様やをば様がどんなにしてお
いででせうか。御機嫌をお尋ねする文を綴りませう。
これは召使ひにもたせてやることにしませう。

寒さ見舞 (板書)

見舞の意義問答

思想整理

母より見舞のしるしに、をちに菓子を送らるゝことと假定す。
範文一回朗讀
如何なることが最も大事であつたか。

口語體書簡文に關する教案

どんなときに出すのですか。

次に書くことは (我家の事)

次には (自分のこと)

次には (母より頼まれしこと)

腹案

以前の各文段を整理腹案せしむ。

記述

敬體なるべきこと、假名の使用につきて注意。

机間巡視

誤字、脱字、語句訂正及び疑問の字句教授記述終りしも
のに推敲せしむ。

推敲

兩假名の混用、誤字、脱字、誤れる語句、文段の誤りにつ
き、自己訂正、
隣生と交換せしめて各自訂正、
文章提出

三十五

大阪府天王寺師範學校

口語體書簡文教授の一例

(高等第二學年女兒に模範文を授くる場合)

題目
友人を忠告する文

目的
忠告文の形式と、特兆とを知らしむるにあり。

文例

だん／＼涼しくなりましたお變りはありませんか私無事に勉強してまいりますから御安心下さい
さてあなたは近頃一向學校へ御出席なさいませぬのでどうなされたのかとお案じ申して居りましたが承れば今度愈御退學の上専ら遊藝の練習なさるとかどんな御都合でいらっしゃるのか存じませんが今暫らくの處實に惜しいことと思ひます固より遊藝も女子として必要な技藝ではありますけれど廢學してまで練習なさるのは如何かと思ひます御承知の通り只今は學問の世の中ですたとへ女子でも少くとも小學校位は卒業しておかれれば後に不自由なことと思ひますから御互に今の中に出來ただけの修業をしておかれれば後に取り返しのつかぬことになりませうかう申すと失禮ですが後にも遊藝の様なことは修學の餘暇又は卒業の後何時でも習へることゝ存じます殊に、半年餘りで卒業なさるのですものどうしても今暫く御辛抱なさる方が御得策かと思ひますそれに學校でもあなたが御出でにならんと何だか淋しくなりましたどうぞ御両親様に御願ひして是非つゞいて御出下さい色々失禮なことを申上げ、済みませんでしたどうぞ恐しからず御許下さい。かしこ

方法

- 一 目的指示(文題提出)
- 二 豫備説話(内容啓發)

諸子の學友の中、中途にて退學して遊藝を學ばんとする人あり。そはその人の爲に喜ぶべきことなるか、その人の將來は如何。

(同情心の喚起 忠告の必要を感せしむ)

さらば、如何に忠告を與ふべきか、餘り忠告を聞敷ことを言はば、却つて反感を買はん。消息文はすべて親愛の情と、禮儀を守る必要あれど、特にかゝる手紙に於て然り。

三 模範文提出(小塗板に準備せるもの)

通讀せしむ數回。

大意を話さしむ。

要點の筋書(問答しつゝ、板書)

イ 時候の挨拶

ロ 先方の永く缺席せるにつき、心痛せること、

ハ 廢學せんとするを聞きて、忠告を與ふ。

ニ 結尾

親愛の情の籠れる言ひ方、禮儀を失はず、先方を尊敬せる點を發見せしむ。

更に朗讀せしむること數回。

四 範文を抹消し、暗書せしむ。

(以上一時間)

三十六

大阪府池田師範學校

尋常科第四學年男生口語體書簡文教授案

文題

北海道の有様を問ひ合す文

豫定時間

二時間中の第一時

要旨

問ひ合せ文の内容に就て、問答整理して、後に綴らせ、兼て讀み方にて授けたる、北海道移住につきての觀念を明白にす。

教法

文案

こちらでは、だいぶん、あたたかになりました。あなたはおかしりございませぬか。お伺ひ申します。わたくしの内はみんな、たついで、をりますからご安心くださいませ。
昨日、先生から聞きますれば、御地の奥には、まだ、たくさん開けん所があつて、これを開くものは、誰でも、安樂にくらして行くことが出来るよーになり。このほかに、魚を捕ったり石炭を掘ったり、馬や牛を飼ったりするよーな仕事もあります。私、私も大きくなつて、いきたいと思ひますか

ら、どーぞ一度御地の有様を、くはしく御知らせください、おれがひ申します。
二月二十一日
敏 雄 様
芳 夫

教順

一 豫備的問答

先日から讀み方で、「北海道移住者の話」と云ふ題で、誰の話を読んだのか、『友だちのおぢいさんの話した事を讀みました』。おぢいさんは北海道に移住して、今ほどゝなつて居りますか、『立派な家に住まつて、安樂にくらしてゐます。』誰が行つてもそんなに立派に暮せるのですか、『誰でも立派に暮せます。』何故か、『北海道にはまだ奥にたくさん開けん所がありまして、……』その外に、仕事はないか。『魚を捕ったり、石炭を……馬を……』そんな事が出来て、金持になつて、立派に暮す事が出来るなら、どーです。皆さん行こーと思ひませんか。大きくなつていつて、一つ立派なものになろーちやありませんか。そんならいよー行つても立派になれるかどーか、實際をこの間からおぢいさんに話を聞いた『敏雄』(板書)と云ふ子供に尋ねてやろーちやありませんか

二 思想整理

さー何を尋ね合すのでありましたか。『北海道の有様を、』よし、『北海道の有様を問ひ合す文』(板書)何が一番だいいですかね『有様をくわしく知らしてもらおう事です。』そーだ。『有様をくわしく知らして下さい』(板書)と云ふ事を忘れてはいけません。何せ行こーと思ふのですか。『昨日讀本を讀んで……………』そーだ。『開けない土地があるか』(板書)『その外色々な仕事があるか』(板書)それだけを尋ねればよいのですがこの三つを續けて話せますか。(二人程話さしむ)それで、たいへんよいが、ただそれだけで尋ねる手紙になりますかね。『否時候見舞を書かねばならぬ。』それだけか。こちらも皆ぶじだと知らさねばならぬ。『よろしい。』の三つをつけて立派に話してごらん。(二人程)

三 發表

さー、甘く書けますかね。さー甘く書いて北海道の敏雄様の所へやろーちやありませんか。この際注意すべきこと、

A 言語體で平假名で書いて、
B 句讀點に注意すること。

さー用意して美しく書きなさい。
發表中は可成的に干渉せざることを、
成績處理

自己 を充分になさしめ、後膝下 をなす。
第二時に於て清書をなさしむ。

三十七

大阪府女子師範學校

尋常第二學年教案

題目

おとうさんのおかへりをしらせる手紙

目的

讀本ニ於テ授ケタル「てがみ」トイヘル課ノ應用トシテ、伯父ニ送ル手紙ヲ作ラシメ、手紙ノ書き方ニ關スル凡テノ注意ヲ練習ス。

教法

自作法ニヨリ板上訂正

教順

一 豫備問答

1 手紙ノ書き方ニツキテ、オチヨノ母ハオチヨニ如何

ナルコトヲ教ヘシカ。

2 オチヨハ兄ニアテ、如何ナル手紙ヲカキシカ。

二 目的指示

今日ハ諸子ハオチヨニ倣ヒテ伯父ニ送ル手紙ヲ作ラレヨト、(文題板書)其ノ申シ送ルベキ用事ハ、他行セル父ノ歸宅ヲ知ラセルコトニセン。

三 思想整理

問答ニヨリ左ノ事項ニマトム。

誰ガ 何時 何處カラ

四 各自ニ綴ラシム。

五 批評添削

一二生ノ文ヲトリテ板上訂正ラナス。

六 個人訂正セシム。

七 清書セシム。

三十八

兵庫縣御影師範學校

口語體書簡文教授案

尋常科第四學年第三學期

教材

林檎を贈る手紙 (豫定時間一時間半)

要旨

指導法により、到來物を人に贈る時の口上を練習し、進んで之を手紙に認めしめ、贈與文の練習をなす。内容に於ては、尋四讀八北海道移住者の話に聯絡せしめ、文の形式は尋三讀六寫眞を贈る手紙に聯絡せしめ、本文と月日署名宛名のみを以て構成せしむ。

方法

教授

一 境遇の假設

あなた方は讀本で、北海道移住者の話を習つたが、移住した人は、主にどんな仕事をしてゐるか。
農産物には如何なるものがとれるか。
あなたのをぢさんで、北海道に移住していらっしやる方があるとしよう。その方から林檎を送つて下さつたのです。

それに、かういふ手紙がついてきた。

一 はじめて自分の畑に取れた林檎であること。

二 これから年々多く取れる様になるから、毎年送るとのこと。

食べてみたところが、なか／＼おいしかったから、隣村の親類へ送ることにしよう

二 次の問答によりて、假設したる境遇を確實ならしむ。北海道のをぢさんの所から何を送つて来たか。その時どんなにいつて来たか。その林檎をどうするのですか。

三 口上練習
これを親類のおうちへ持つていった時、どんなに言つてお渡しするか。

一 どうした林檎か。

二 なせ上げようと思つたのか。

口上豫定
これは昨日北海道のをぢさんの處から送つてきた林檎です。

はじめて畑にとれたのださうです。

うちで食べて見ましたら、わりあひにおいしうぢざいましたから、少しですけれども差上げます。どうぞ、おあがり下さい。

四 手紙
これに手紙を附けて、人に持たせてやることにしよう。

その手紙にはどんなことを書けばよいか。さきの口上をそのまま、書けばよい。

皆さんは今迄に讀本で物を贈る手紙を習つたことがある。何を贈る手紙であつたか。それを一度讀んで上げよう。

讀み上げる。手紙は尋三讀六第二十に手紙を授けたとき、其の手紙を贈與文に應用して授けおけるものなり。

この手紙の終にどんなことが書いてあつたか。それによく似たことを此手紙に書き添へることは出来ないか。

(來年も送つてよこすといつてきたから、送つてきたら差上げること)

五 記述

六 訂正

イ 自己訂正

□ 相互訂正

七 提出

以上一時限

添削 課外添削 批評材料の蒐集

第二時限 (約半時間)

訂正すべき點、及び、佳良なる點について批評朗讀 (後二十分は返事の書方に充つ)

文例
昨日北海道のをぢ様の處から林檎を送つて下さいましたをぢ様の畑に初めてとれたのださうです食べてみたら思ひのほかおいしくございましたから少しばかり差上げます
どうぞおあがり下さいませ
來年もまた送つてあげるといつてよこしましたから送つてきましたらまた差上げます

三十九

兵庫縣姫路師範學校

尋常科第六學年綴り方教案

題目
入營せる兄に送る手紙

目的
右の題目の下に、口語體にて一の口用文を綴らしめ、書簡文の形式を知らしめると共に、思想發表の練習をなす。

準備
數日以前より題目を興へ、文の形式及び内容につきて考究

せしめおくこと。

標準文

拜啓近頃は、寒さがよほどきびしくなつて來ましたが、兄上様は、御入營後、何の御さわりもなく、御務めなされておますか、お尋ね申し上げます。次に、案内一同は、しごく達者で暮してをりますから、御安心下さい。さて、兄上様が、御入營なされてからは、父上が、これまでよりは、一層よくお働き下さいますので、他の者も、自然、これにならふ様になりまして、少しの不都合もなく、楽しく暮してをります。弟も毎日學校へ通つてをります。兄上様が、御入營なさいました當時は、夜なんか何となく、さみしう感じましたが、此頃は大分なれて來ました。其上、親類の方々は、始終折々、どうしてをるかといつて來て下さいますし、殊に近所の方々は、始終尋ねて下さいます『何なり御用に立つことがあつたらおっしゃつて下さい』と心切にいつて下さいますので、さみしい事と忘れて喜んでをります。右の様な次第でありますから、家のことは、少しも心配しないで、身體を大切に、どうか、軍務に、御勉勵なさいませ。それをお頼み申します。先づは、右近況御報知まで、敬具

教法

- 一 目的の豫告
一 これから入營せる兄に、家の模様を報知する手紙の文を作つていたゞきませう。此時文題板書、
- 二 思想の整理
一 此間からいつておきましたから、皆よく考へて來ましたらうね。先づこんな文章はどんな順序にかけばよいと思ひますか。

- 一 右の質問によりて、各兒童に意見を發表せしめ、大
様次の如く順序を定む。
- 1 時候の挨拶
- 2 本文
- 3 結びの言葉
- 一 時候の挨拶については、どんなことを、書かうと思
ひますか。
- 一 四五人に意見を發表せしめ、其誤りを正し、書き方
が種々あるにより、今四五人の述べしことを参考
として、各自適當なるものを考ふべきことを知らし
む。
- 一 本文にどんなことを書かうと思ひますか。
- 一 これも前と同様、家庭の事情により一定すること能
はざれば、數人に自分の考を述べしめ、教師も標準
文につきて一例を示し、各自に是等を參考として書
くべきことを知らしむ。
- 一 但し此際、入營せる人などに對しては、出來得る限
り、心配をかくるが如きことは、書かざる様にすべ
きことを注意す。
- 一 結びの言葉にはどんなことを書きますか。

- 一 前と同様の取り扱ひをなす。
- 一 各自に腹案を立てしむ。凡四五分間。
- 三 記述
 - 一 腹案をなしたる時は、練習帳に記述せしむ。
 - 一 記述を早く終りたるものは、互に、交換訂正を命ず。
 - 一 尙時間に餘裕あらば、二三の兒童に作りたる文章を
朗讀せしむ。
- 四 教授上の注意
 - 一 二三の話させたる者の思想、教師の標準文等によつ
て全體の思想を束縛せざることを、
 - 一 讀點、句讀點に十分注意すること、
 - 一 文字を丁寧にかゝしむること、及び文字をかく時の
姿勢に注意すること、

備考

課外に訂正をなし、次の時間に板上訂正をなす。

四十

兵庫縣明石女子師範學校

尋常科第三學年級方教案

題目

梅田春吉

三月一日
田島新藏様

人を招く文

教材

一 招待文ノ一般型式

前文 時候
安否

本文 理山 招待ノ辭
時、方法

末文

二 注意事項

- (イ) 招待スルニ到リシ所以、並ニ時、方法等ヲ明ニシ、
對者ヲシテ不審ノ念ヲ起サシメザランヨニスベキ
コト、
- (ロ) 來臨ヲ喜悅スル旨ヲ認ムベキナリト雖モ、強請スル
ハヨロシカラザルコト、
- (ハ) 對者ノ身分(對尊對等對卑)住所(遠隔近邸)及び交誼
ノ近況ノ如何ニヨリ、記述事項並ニ用語上ニ相違ア
ルベキコト、

三 模範文

さきごろ臺灣にいらつてゐる、うちのところから、むかふの寫眞をたく
さんおくりよこしました。そのなかには、新高山や臺灣神社などを
うつしたもので、そのほかまだ見たことのないものが何枚もあります。
そのうちにあそびに來てごらんないませんか。

四 練習事項

- (1) 購買セシ書籍ヲ展覽セシムルタメ、近邸ノ子供ヲ呼
ブ場合ノ口上、
- (2) 遠キニ在リシ家人ノ歸來ヲ告グ、珍ラシキ話ヲ聞カ
シムルベク、遠方ノ友人ヲ招ク場合ノ口上、
- (3) 修養會ニ舊師ヲ招待スル場合ノ口上、

目的

範文ニヨリ、簡易ナル招待文ノ形式注意事項ヲ知ラシメ、
種々ノ實際の場合ニツキ、コレガ練習ヲナサシメントス。

豫定

五回 二時間半

- 此外課外ノ課業トシテ、尙若干時ヲ要スルコトナル
ベシ。
- 第一項 半時間 模範文ノ取扱
(1)ノ題目告知 記述(家庭)
- 第二項 同 (1)ノ批正整理
- 第三項 同 (2)ノ記述批正整理
卷紙封筒ニ淨書(家庭)

第四項 同 (2)ノ成績ノ返附

(3)ノ題目告知 記述(家庭ニテ)

第五項 同 (3)ノ批正整理

第三項 三月一日 第四時前半 施行

遠キニ在リシ家人ノ歸來ヲ告ゲ友人ヲ招ク文

假説(大要ヲ次ノ如クニ)

一 童ニ太郎トイフアリ。ソノ兄ハ滿洲守備兵トシテ久敷彼ノ地ニアリシガ、此程滿期除隊トナリテ歸來シタリ。太郎ノ喜ブコト甚ダシク、即チ兄ノ話ニヨリテ彼地ノ模様ヲ知り、尙且齋セシ繪畫寫真玩具等ニヨリ、彼ノ風俗等ヲ窺ヒ得タリ。

ココニ於テ太郎ハコノ悦ヲ分クンガタメ、一書ヲ認メテ友人五郎ヲ招カントス。如何ニ認ムベキカ。

五郎ハ太郎ノ從兄ニシテ、神戸市湊川小學校ノ第四學年生ナリ。而シテ茲數月來不沙汰セルナリ。

時日

範文並ニ前項ニ學習セシ各兒ノ頭腦ヲ以テ、右ノ假説的場合ニ於ケル適應ナル書簡文ヲ綴ラシメントス。

教順

一 假説ヲ靜聽シテ、腹案ヲ作成セシム。

- 二 一生ヲシテ試ニ腹案ヲ言語ニ發表セシム。而シテ劣兒ノ思想啓發ノ鍵ヲ與フ。
- 三 練習帖ニ記述セシム。
- 四 教師ハ机間ヲ巡視シ主トシテ劣生ヲ補導ス。
- 五 數生ノ成績ニツキ朗讀訂正ヲ行ハシム。
- 六 自己訂正ニヨリ成績ヲ各自整理セシム。
- 七 卷紙封筒ニ淨書セシメ、學校郵便ニ投函セシム。
- 八 五、六、八課外即チ家庭ニ於テ行ハシム。
- 九 投函セル成績ヲ點檢シ、特別注意ヲ與フベキモノニ對シテハ、膝下訂正ヲ行ハシム。
- 十 概評及成績物ノ返附、
- 十一 七ハ課外ニ於テシ、八ハ第四項ノ初ニ於テ處理ス。

四十一

奈良縣師範學校

尋常第五學年綴方教授案(第一時)

文題

入學を賀す

目的

本年尋常科卒業生にて、中學校に入學したる者に對する、兒

童の祝意を、十分に發表せしめ、併せて、祝賀文の一般形式を了知せしむ。

文案

たいそー、よい時候になりました、君は、おたっしゃでございませうか。今日學校で、先生からききますと、君は今度めでたく、中學校に、御入學なされたさうな、まことに、よろこばしいことでございます。君は申すにおよばず、さだめし御両親様には、何よりおよろこびなされていらつしやるでせう。僕も、たいそーうれしくて、學校から歸ると、すぐこの話をいたしましたが、父母も、大に感心いたしてなります。いつも郡山中學校の入學試験は、すいぶん、むつかしくて、今度も、なかなか、むつかしい問題がたさうでありますのに、君は、いたつて御りっぱな成績をおとりになつたことでありませう、これは、全く、君がふだんの、御勉強がよかつたからであると、感心の外はありません。僕は、君がこれから後は、なほなほ、よい成績をおとりなされることと、信じてをります、ただ運動などの、御不足のないように、お願ひいたします。いづれ、あとでおめに、かかりたい考ですが、とりあへず手紙で、お祝ひ申します。

方法

指導法による。

第一 豫備

(イ) 今日第一時限に……さん、……さん、……さん、……さん、等が郡山中學校に入學せられたことをおはなししましたね。みなさんのお友達が、こんなに立派に入學せられたについては、みなさんは、たいそーうれしく思

第二 整頓

(イ) どうなにかいたらよいでせう。先そのかくべき要項

(ロ) ふでせうね。こんな場合には、みなさんはどうしたらよいのですか。

(ハ) (兒)お祝ひいたします。どうしてお祝ひしますか。

(ニ) (兒)手紙をやつてお祝ひいたします。おめにかゝつてお祝ひ申上げてはいかがですか。

(ホ) (兒)それはけっこーですが、私等は、毎日學校にでんければならないから……君のお宅に參るわけにはいきませぬ。

(イ) 然し、もう六日たつと土曜日がくるから、その午後からでも出かけてはどうですか。

(ロ) (兒)それではあまりおそくなつて、禮をかくことになりませぬ。何れ後でおめにかゝつて、お祝ひいたしたいと思います。

(ハ) さよー、よくいへました。そんなにするのが禮儀であります。それでは、そのお祝ひの手紙をこれから書くことにませう。

(ロ) を考へてごらん下さい。
 なんのことをお祝ひするのですか。
 (兒) 君が中學校にめでたく入學せられたことをお祝ひします。
 (ハ) さう、それがかんじんなことであります。
 (内容ノ主眼點ヲ明カニス)
 これがぬてけは、どんなにうまくかいてあつても、この手紙はだめですよ。
 (ニ) それからこの手紙はなんのためにさし上げるのですか。
 (兒) 君のおめでたいことをおよろこび申上げるのです。
 (ホ) さうです。それですから、此手紙には、みなさんがよろこぶ眞心が十分あらはれなければなりませんよ。
 (手紙ノ主目的ヲ明カニス)
 それでは、手紙の初になんとかきませうか。
 (兒) 時候のことをかきます。
 (ト) よろしい。近頃の時候はよくわかつてゐませうね、時候がよいので、奈良公園もだいふんにぎやかであることもかいたらよいでせうね。

(チ) (兒) イヤ、それは、すこし横道に、はいつてをるやうに思ひます。
 さう、これはすこし横道にはいつてゐるよ一ですね
 こんなことは、かゝんほ一がよいと私もおもひます。
 それでは、次に何をかきませうか。
 (兒) 中學校に入學せられたことをかきます。
 次に何を。
 (又) (兒) お祝ひの言葉をかきます。
 (ル) それでは、これで手紙ができましたね。
 「たいそ一よい時候になりました、君は、今度中學校にご入學なされたさうな、おめでたうございます」
 これでよろしいでせうか。
 (兒) これでは、われらのよろこびの眞心がよくあらはれてゐません。
 (ヲ) さうです。これではみなさんのよろこびの情が十分にあらはれてをりませんよ。どうするとよいでせうか。
 (兒) 君の御両親様もたいそ一よろこんでいらつしやるでせうから、それをかきます。
 さう、ほかには。

(カ) (兒) わたくしの家のみながよろこんでをるといふことをかきます。
 さう、よくいへました。これでみなさんの眞心が十分あらはれることになるでせう。
 (カ) これで、立派なお祝ひの手紙ができましたでせうがまだ何とかして、みなさんの眞心が一層よくあらはれるよ一にかくことはできませんか。
 (兒) よほど、よい成績で御入學なされたことをかきます。
 (ヨ) さう、よくきがつきました。今朝わたくしが、みなさんに「さん、さん、さん、さん、などは、みな十番以内の好成績で入學せられたといふことをおはなし、ましたでせう。これは、まことにおめでたい上のおめでたいことではありますまいか。
 (夕) もうかくことはありませんか。
 これだけのことを都合よくかくと、まことに立派な手紙になりませうね。しかし、をはりに、みなさんは何か……君に對して希望はありませんか。
 (兒) これから後も一層のごへんきよ一あつてほしいといふことであります。

(レ) さう、よろしいでせう。ほかには。
 (兒) からだをおだいじになされるよ一にこのことではありません。
 (リ) さう、だれもみな、かういふ希望をもつてをるでせう。まことに、よい希望だと思ひます。
 (リ) しかしこの希望をかくのには、よほど注意せねばなりませんよ。なにぶんみなさんが目下ですからね。殊にあの三人は、何れも勉強にかけては、如才のないものばかりですからね。これらのかきまはしがたいそ一骨の折れるところです。一つみなさんの頭をできるだけしぼつてごらん下さい。
 (二) 問答終りたる後兒童各自に、雜記帳に記述すべき要項を順序的に表記せしむ。
 第三、記述
 綴方帳に記述せしむ。
 第四、訂正、添削
 記述し終りたる兒童より、順次机間訂正(指示法ニヨル)をなし、主として言語の重複、及文字の誤りに注意す。
 他は、時間外に、簿上に於て訂正、添削す。
 (備考) 本案第二時ニ於テハ、共通誤點 批評訂正ヲナシ、

次ニ教師ノ模範文(本案ニテ文案ト云フ)ヲ記帳セシメ
コレニヨリテ、祝賀文一般形式ヲ授ケタリ。而シテ第
三時ニハ、之ガ類題ヲ提供シテ綴ラシメタリ。

四十二

奈良縣女子師範學校

尋常科第五學年國語科綴方教授案

教材

馳走になりし禮

目的

本教材につき、各兒の経験によりて發表したる思想を整理し、話方を練習せしめて綴らしめ、以て日用文に習熟せしめんとす。

教法

豫備

- 1 この頃は各町村にまつりなど行はるるが、幼時より他家へまつりなどに行きたるもありや。
- 2 行きたる時はいかにもてなすが。
- 3 馳走せらる。
- 3 馳走になると、如何に感ずるか。

兒……うれし。

目的指示

今日はそのうれしき馳走になり、歸りて母にかはり、その禮状を出すにつきてつくらん。

馳走になりし禮。板書 兒をしてよましむ。

教授

- 1 この題にてつくるが、まつりの外いかなる時に馳走になるか。
兒……いろ／＼めでたきときなど、
いづれの時の心持ちにてつくるもよろし。
- 2 先づ相互に顔見合せたる時はいかにいふか。
二三兒をしていはしめ誤を正す。
兒……この間はご馳走になりました、ありがたうございました。
きのふはいろ／＼とご馳走になりました、お土産までありがたうございました。
- 3 今いひし中にて、最も必要な所はいづこか。
兒……禮のこと。板書
何故禮といひしか。

兒……馳走のになりしため。板書

この外書くことなきか。(なければ)

若しむかふより先きに手紙來り居れば、いかにかくか。

兒……お手紙の如く(えんりよなしにまゐる。板書)
うれしくいただきかへりて何ともいはぬか、

兒……祖父母によすを知らず。板書

この手紙は自身のみにて出すか。

兒……母にかはりて、お禮を申し上ぐおん禮を申す。板書

をばさまの名宛にして出さば、外の人に如何なすか。

兒……みなさまによりしく。板書

以上、其他書くことはなきや否を問ひこゝろみ、

(なければ、)

4 板書事項につき、作文構成の順序をさだめしむ。

5 其事項を二段に分ち、二三兒をして話さしめ、誤を正す。

全體にして再びはなさしめ、接續、句の誤を訂正し、板書事項を消す。

教師模範を示し、尙も數兒をしてよく話方に練習せしむ。

6 記述せしむ。

其間

(イ) 兒童の難字の問ひに應じ板書す。

(ロ) 机間巡視して、姿勢に注意し、誤字誤句を訂正す。

記述終れば、句讀點を忘れざるよし、幾度か默讀せしめ、文章もねらしむ。

7 つくりし文を時間の終りにあつめて後添削す。

四十三

和歌山縣師範學校

尋常科第六學年

材料

借りた書物を返す手紙

要點

- 一 借用せる書籍を返済する手紙文を綴らしめ、謝禮文の書き振りを知らしむ。
- 二 手紙の認め方に習熟せしめ、實用的知識を得しむ。

時間

第一時 草稿

第二時 手紙に認めしむ、
第一時 教法(助成法)

第一段

- 一 文題提出(目的指示)
- 二 條件明示、

少し遠方の友達より半年程前に借りおきたる讀本一冊はや用もすみたれば、之を返済せんとす。使に持たせてやるに、謝禮の手紙を添へんとす。

三 手紙文の組立につき問答

前文(あいさつ)―本文(用事)―末文(そへ言葉)日附、氏名、宛名

以上の四部よりなること、

四 この形式にて今の手紙を認めんには、如何に綴るべきかを考へしめ、思想を整頓す。

- 1 時候のあいさつ、
- 前文 2 先方の様子をとふ、
- 3 自己の様子をつたふ、
- 1 平素の禮を述べ、
- 2 書物を返す、
- 3 受取つて下さい、

4 お禮の言葉、

1 お暇にはお遊に、

2 先は……………

3 おからだを大切に、

第二段

一 以上の條目に従ひ、各自思想を整頓せしめ、各節につき注意すべきことを考へしむ。

二 尙ほ記述上の注意を與ふ。

(1) 文はなるべく判り易く綴るべし。

(3) 先方に對し敬意を失せざるやうすべし。

(3) 文字は丁寧にかき、誤字、あて字、脱字等なきやうにすべし。

(4) 日附、氏名、宛名等を忘れざるやうにすべし。

三 記述上の約束をなす。

用語は口語體の崇敬體を用ふること、

四 各自記述せしむ。

第三段

一 机間巡視……指導、

二 綴り終らばよく讀ましめ、自己訂正をなせしむ。

三 交互訂正をなさしむ。

四 草稿帳を出さしめ、簿上添削を行ふ。

(次の時間に於て、批評をなし、巻紙及び封筒に認めしむ。)

四十四

高知縣師範學校

尋常科第五學年綴り方教授案

教材

題目 入營したる人よりの書簡文に對する返事(口語體)

(備考) 二時間ニテ之ヲ教フ。本時間ニ於テハ、主トシテ思想ノ整理ト記述トニ止メ、次ノ時間ニ於テハ、ソノ成績ニ批評ヲ加ヘ推敲セシム。

(案文)

御入營後はいかがかと案じて居ましたか御近況はしく御報知下され安心いたしました。

かれて兵營内には正しい紀律のあることは度度聞いておりましたが御手紙により何から何までいちいち正しい紀律のあることに驚きましたそれでこそわが國の軍人が戦争にもよく勝つことと思ひますそのよゝな正しい紀律を守りその上學科も術科も勉強せねばならぬのですからよほど困難であらうと存じますしかし君は日頃おからの御丈夫な上學校を御卒業なされてからもよく御勉強なされておたゆみ萬事御上達のことと思ひます何事も國家のためですから大いに御奮發なされれば軍人の模範となられんことを願ひます

まづは御返事まで

目的

高等小學讀本卷二中ニテ學ビタル第十一課大山鐵三ヨリ小泉清ニ宛テタル「營内の模様を知らす文」ニヨリテ、ソノ返事ヲ綴ラシムルニアリ。

教法

第一段

1 目的指示

2 大山鐵三ヨリノ書信ノ内容ヲ述ベシメ、左ノ要項ニ纏ム。

イ 書信ニ對スル挨拶 □ 營内ノ有様

ハ 自己ノ消息 ニ 終リノ挨拶

3 之ニ對スル返事ハ如何ナルコトヲ書クベキカラ腹案セシム。

第二段

1 右ノ書信ニ對スル返事ヲ認ムルニ當リ、記述スベキ要項ヲ問答シテ、左ノ如ク整理ス。

イ 受ケタル手紙ニ對スル挨拶、

□ 書信ニヨリテ兵營内ノ正シキ紀律ヲ一層明カニセシト、

ハ 鐵三君ハヨク規律ヲ守リ、學科術科共ニ勉強シツツアルコトヲ知レルコト、

ニ 鐵三君ハ身體モ強健、カツ小學校ヲ卒業セルユエ萬事上達スベキコト、自己ノ感想、

ホ 國ノタメニ奮勵スベキ様、鐵三君ニ對スル自己ノ希望、

ヘ 終ノ挨拶、

2 以上ニヨリ、更ニ腹案ヲ立テシム。

第三段

1 左ノ補教ヲナス。

イ 手紙ヲ受ケン挨拶ニツキテハ、

一 昨日は御手紙を下さいますてありがたう存じます。御機嫌よくおつとめでさうな。おめでたうぞんじます。

二 この間は御手紙を下されましてありがたう存じます。おかげで營内の模様はくはしくわかりました。

三 御入營後はいかがと案じておましたに、くはしき御近況を御報知下され、安心いたしました。

ロ 自己ヨリノ希望ニツキテハ、

一 國のためでありますから、御奮發なされ、あつぱれ軍人の模範となられんことを願ひます。

二 兵士となつて働くのは、天皇陛下に對し奉りて大なる忠義なれば、……………

2 書簡文ノ形式ニツキテ左ノ注意ヲナス。

一 前後ノ餘白ハ各、二寸位、

二 天地ノ餘白ハ各、五分位、

三 讀ミ易キ様ニ、字行ノ間隔ヲトリ、且之ヲ揃フベキコト、

四 要件ノカハリタル時ハ、一件毎ニ行ヲ改ムベキコト、

五 日附、姓名、宛名ノ書キ方、

3 質疑ヲナサシメタル後記述セシム。(假名ハ平假名ニ一定ス)

4 特ニ左ノ事項ニ注意セシム。

イ 假名遣 ロ 誤字脱字 ハ 語句ノ重複

ニ 語調

5 集帳

四十五

徳島縣師範學校

尋常科第四學年國語科綴方

文題

繪葉書を見に来るやういつてやる文

案文

往信 尋常三學年

うちのねえさんだくさん綺麗な繪葉書を持ってぬます
そして、その中には珍しい面白いものがありますから、お出なさい見せて貰ってあげませう

往信 尋常四學年

さきごろ臺灣にいらぬます伯父のところから向ふの寫眞を送つてよこしました、その中には、新高山、臺灣神社などのうつつしたものがありますから、其内に遊びに来て御覽なさいませんか

返信 尋常四學年

早速交に話しましたら、それは、よろしい、見せて下されば、見せていたくげと申しました、この日曜日には、参りますからどうぞ見せて下さい

理由

讀本中ニ挿入セル招待文練習

教法

豫備、問答

口語體書簡文に関する教案

今ノハ如何ナル場合ニ用キラルルカ、三學年ノ案文ヲ朗讀ス。

今ノハ前ノトドレダケ異ナル點アリシカ、四學年ノ案文ヲ朗讀ス。

何々ノ事柄ヲ書イテアリシカ。

記述、腹案

今イッタク通り書カントスルモノハ、其通り書ケ。

何カ直シテ書カントスルモノハ、直シテ書ケ。

各自記稿

中等生板上

他生ハ簿上

批正、各自隣生ト交互注意

板上訂正

原作者ノ反省

教師ノ指摘

コノ誤謬ハ如何ニスベキカ、コレト異ナル表出ハナキカ。

ココハ如何ニ修飾スベキカ。

訂正文吟味

文段ノ構成ハ如何。

關聯問題吟味

繪葉書ノ外ニ何カコノヤウナコトイツテ遣リシコトハ
ナカリシカ、又ハ遣ラント思フコトアルカ。(適用上)
カカル手紙ヲ貫ツタトキニハ、イカニ返信スベキカ、
話シ見ヨ。(返信)
教師標準文(返信)ヲ朗讀シテ、話述(兒童ノ返信)ト異
ナル點ヲイハシム。

時間外草稿帳點檢

備考

讀本中ノ招待文

まきこる臺灣にいつてゐるをちのころから、むかふの寫眞を、たくさん
おくつて、よこしました、そのなかには新高山、臺灣神社、などをうつし
たものやそのほかまだ見たこともないものが何枚もありますそのうちにあ
そびにきてこらんさいませせんか

四十六

島根縣師範學校

尋常科第二學年第三學期第七週

國語科(綴方)教授案

題目

學校のよすをともだちに知らず文。二時間教材ノ第一
時

摘要

選題ノ理由

- 1 轉學ノ兒童ニ其ノ狀況ヲ知ラス。
- 2 讀本卷四第十六、第十七手紙ノ文ニ連絡、
教授上ノ要點

- 1 文章宛名月日等ノ位置書方ニツキテ注意。
- 2 教師ノ移動朋友ノ病氣ノ全快ヲ知ラス。

文體及使用スル假名、

口語體、平假名、

文例、

方法

- 1 文題ノ提示

- 2 豫備的問答

- 3 思想整理

- 4 形式上ノ要點注意

- 5 記述

- 6 放課後草稿帳ヲ檢閲シテ、誤謬ノ點ニ符號ヲ附ス。

題目

同上

第二回

摘要

教授上ノ要點

- 1 草稿帳ニ表レタル誤謬ニ就キテ注意、
- 2 中等兒童ノ文ヲ板上ニテ批評訂正、
- 3 各兒童ノ草稿帳訂正、

方法

- 1 草稿帳ニ於ケル誤謬説明、
 - イ 内容上ノ誤謬過不足順序等、
 - ロ 形式上ノ誤謬(漢字、假名遣、位置等)
- 2 中等兒童ノ文板書、
 - イ 讀マシム、
 - ロ 批評 訂正、
- 3 各兒童ノ草稿帳ニ就キテ訂正セシム。
- 4 清書、
- 5 朗讀、

四十七

島根縣女子師範學校

高等第二學年綴方教授案

教材

紐結を送られし返事

目的

自作法により日用文練習(同輩間)

方法

- 1 紐結を送る手紙ノ批評、
 - イ 佳作文ヲ朗讀セシム。
 - ロ 兒童ノ批評、
- 2 目的指示

今ノ手紙ヲウケタトシテ其返事、
文題 紐結を送られし返事、

條件 紐ノ結び方ハ明瞭ナリシトシテ、

文體 口語崇敬體

假名 平假名

- 三 腹案ヲ立テシム。

- 四 記述

机間巡視

記述シ自己訂正終リタル兒童ニハ、批評ヲ與ヘ推敲セ
シム。

- 五 草稿帳ヲ出サシム。

四十八

岡山縣師範學校

尋常科第三學年級方教授案

題目

友だちをよぶ手紙

目的

尋常小學讀本卷六第二十課ニ於テ、案内文ノ形式ヲ學ビタレバ、ソノ形式ヲ他ノ二三ノ場合ニ應用シテ綴ラシメ、以テ口語體ノ案内文ノ練習ヲナサシム。

方法

目的指示

友だちをよぶ手紙ヲ綴ルベキヲ告グ。

發問ニヨリテ、讀本ニテ學ビタル案内文ノ形式ヲ想ヒ起サシム。

一 第一單元 目的指示

旅行中ノ父ヨリ、京都ノ名所繪端書ヲ送り來リタルヲ、他ノ友ニモ見セントテ、友ヲヨブコトヲ告グ。

二 思想整理

1 如何ナル事項ヲ如何ナル順序ニヨリテ記述スベ

キカラ腹案セシム。

2 腹案シタルコトヲ説述セシメ、教師、兒童コンヲ批正ス。

三 草稿帳ニ記述セシム。

四 訂正

左ノ順序ニヨリテ、自己訂正ヲナサシム。

1 事實ノ相違ハナキカ。

2 誤字脱字ハナキカ。

3 理解シ得ルカ。

4 尙巧ミニ綴レザルカ。

五 第二單元 目的指示

自宅ノ梅花目下見頃トナリタルニヨリ、コレヲ友ニモ見セントテ、友ヲ呼ブコトヲ告グ。

六 以下前同様ノ手續ヲナス。

七 第三單元 目的指示、

兒童各自適宜ニ案内文ノ文題ヲ選ブベキヲ告グ。

八 以下兒童各自ヲシテ、前同様ノ手續ヲ履ミテ腹案記述セシメ、教師ハ補助ヲ與ヘズ。

九 各自綴リシ文ヲ朗讀セシメ、教師、兒童共ニコレヲ批正ス。

一〇 課外ニ於テ簿上訂正ヲナス。

以上 一時間

四十九

岡山縣女子師範學校

尋常科第四學年級方教授案

文題

野遊びに友を誘ふ文

案文

このころ野原にいて見るとすみれやたんぽぽ、やれんげ草などの花がまっさかりでそれは、美しいさうです。明日よいお天気でしたら午後からこいっしよに公園にまゐりませうではありませんか。ちよと御伺ひ申し上げます。

目的

讀方ニテ授ケタル春の遊び、三つの蝶ナドニヨリテ、春ノ季節野原ノ有様を想起セシメ、誘引日用文ノ練習ヲナサントス。

方法

助成法(口語文體)

豫備

今日コノ頃ノ郊外ノ有様ヲ想起セシメ、散策ノ快ヲ思ハシム。

口語體書簡文に關する教案

文題提出

思想整理

1 誘引文トシテノ要項ヲ問答シツ、次ノ如ク定ム。

イ 所 ロ 時日 ハ 遊意ヲ促スベキ叙景

ニ 結尾

2 發表ノ順序ヲ日常ノ誘引挨拶ト比較シツ、問答板書

3 次ニ各項ノ内容ヲ整理發表セシム。

4 板書事柄

(イ) 春の野の有様
花 || たんぽぽ || すみれ || れんげ草 || など

(ロ) 場所 || 野原

(ハ) 日時 || 次の日曜日、午後、天氣

(ニ) かきを はり

右第一項ハ讀方春の遊び三つの蝶ナド、連絡ヲトル。

5 二節ニ分チテ言語ニ發表セシメ、次ニ連續發表セシム。

記述

綴方帳ニ記述ヲ命ズ。(一生ヲシテ板上ニ記述セシム)。

批正

1 板上文ノ批正

2 朗讀批評

處理

時間外簿上檢閲ヲ行フ。

五十

廣島縣師範學校

尋常科第六學年男綴方教授案

教時

四月二十八日

(四十五分)

教材

運動會に案内する文

目的

口語體(常體)書簡文ノ練習ヲナサシメ、コノ種ノ書簡文ガ亦一種ノ趣アルコトヲ味ハシムルモノトス。

準備

口語崇敬體ノ書簡文ト候文トヲ用意シ置ク。

教法

教順

教授要領

1 豫備

イ 問答 本年ノ運動會ニ對スル豫想意氣込等ニツキテ

兒童ノ感想ヲ述ベシメ、知己等ヲ招待シテ、自己ノ運動振ヲ觀セシムルコトノ、亦樂シキコトヲノベシム。

□ 題目告示 案内狀ヲ口語體ニテ認ムベキコトヲ告ゲテ、各自ノ案内セント欲スル人ヲ定メシム。(以上五分間)

2 製作

イ 思想整理 案内狀ニ必要ナル條件ヲ上ゲテ、記述事項並ニ順序ヲ明ニセシム。(形式ニ拘束スルコトヲ避クルト雖モ、劣等生等ノタメ、大體左ノ要件ノ缺クベカラザルコトヲ明ニス)。

場所、時日、狀況ノ大略等、

右案内者ニ對シテ、真情ヲ吐露スル様努ムルコト、

從ツテ穩當ナル用語ノ使用ニツキテ工夫セシメテ、

□ 腹案 徐ニ腹案セシム。

ハ 記述 腹案ノ熟スルヲ待テテ、草稿帳ニ停滯スルコトナク、スラ／＼記述セシメ、机間巡視ス。(以上凡二十分間)

尙一生ヲシテ、塗板上ニ記述セシム。

3 整理

イ 批正 板上製作品ニツキテ、記述事項順序用語等ニ

ツキテ、大體共同批正ス。

□ 朗讀 其他二三生ノ作品ヲ朗讀セシメテ、一般訂正

ノ箇所ヲ指摘シ。

ハ 自己訂正 ノ箇所ヲ指摘シ、自己訂正ヲナサシム。

ニ 清書 カク推敲ノ後用紙ニ清書セシム。

終リニ用意セル口語崇敬文並ニ候文ト比較セシメテ常體ノ書簡文ト崇敬體ノモノニ比シテ、冗長ナラズ、シカモ親密ノ情ノホノ見エテ、一種ノ趣アルコト、又候文ノ如ク窮屈ナラザルコトヲ覺ラシム。

(凡十八分)

備考 口語體書簡文ニツキテハ、ツトメテ文ノ窮屈ナル

形式ニハマルコトヲサケテ、ナルベク思想感情ノ發

露スルマ、ヲ綴ラシムルコトヲ要旨トセリ。

記述ハ先ヅ草稿帳ニ記入シテ後清書セシムル場合ト

直ニ清書セシムル場合トヲ併用ス。

五十一

廣島高等師範學校

第一部尋常第四學年綴り方教案

文題

ゑんそくにお友だちをおさそひする手紙

選擇の理由

1 書簡文練習の必要上、

2 近日中宮島遠足の實行上、

教法

一 豫備

(1) 目的指示 文題揭示

(2) 誘引文練習の經驗問答並に當時の優良なる成績一二

朗讀

二 整理

(1) 事柄順序主眼點の三要件により、問答的に思想を整理す。

(イ) 秋の野山の景色よきこと、

(ロ) 場所の選定、

(ハ) 時刻の取極め、

(ニ) 仕度、

(2) 腹案

(1) 口誦發表 批正

- (2) 板上綴方(一名他は簿上綴方)机間指教
- 四 處理
 - (1) 板上處理
 - (2) 簿上處理

五十二

山口縣師範學校

口語體書簡文教授案例

尋常科第五學年男女合併學級

文題

遠足に友をさそふ文

目的

- 一 誘引文ノ一形式ヲ知ラシム。
- 二 對話者ニ對スル適度ナル辭令ノ用法ニナレシム。

方法

- 一 兒童活動ノ分量上ヨリ見テ……助作文
- 二 教師ノ教材取扱方ヨリ見テ……混用法

時間

三時間完結

第一時 文題提出、要項選擇、及其排列決定、話述整理及

- 練習
- 第二時 要項及話述復習、記述、自己訂正、草稿紙蒐集、
- 第三時 草稿紙返附、批評、清書、精讀文題完了、

教順 大要ヲカ、グ。(第一時)

(豫備)

一 設問

イ 諸子ノ此頃(春日)ノ遊ビニテ、最モ好ム所ハ何ゾ。(遠足、山登等)

ロ 何故ニ其ヲ好ムカ。(春ノ自然美觀ヨリシテ)

二 文題指示

(男子ハ西風驪山登、女子ハ吉敷方面遠足ニツイテ、友人ヲ誘引スル手紙)

(教授)

一 設問

(イ) 此ノ手紙ニテ、最モ主體トナルベキ個處ハ如何。(おさそひする……)

(ロ) ソノ明瞭ナラシムルタメ、附帶的重要事項如何。(なせこんなことを思ひ立ちしか。何時。如何なる工

合に)。

二 記述要項抽出

然ラバ其レヲ考ヘツ、本文ニ於テ記述スベキ事項ヲ列擧セヨ。(兒童は此時既習書翰文ノ形式ヲ想起シテ之ヲ答フ)。

時候のあひさつ、むかふのやうすをたづねる、こちらのやうすをしらす、用事

結びのことば、月日、自分の名、むかうの名、

三 要項ノ吟味

(イ) 右ノ抽出要項中不必要ノモノアリヤ。

(ロ) 用事ノ内容ヲ今少シ分チ考フベシ。

(ハ) 斯ク吟味シテ後左ノ如ク決定ス。

向ふの様子をたづねること、

用事

1 春の時候のよいことをのべる。

2 この時に遠足山登などをする、いかにおもしろからんか。

3 いついくか。

4 たれと、

5 行く行かんについての答のしかた、

6 行くならばその用意のこと、

結びのことば、

月日、自己の名、宛名、

四 話述整理及練習(教授者ノ最モ力ヲ注グベキ處)

(イ) 愈々之ヨリ話述ニ入ルガ、男子ト女子トハ同ジコトヲ云フニシテモ、其間多少ノ差異アルベキコトヲ豫期セヨ。例ヘバ

男子

ごあります です

行きませんか

します

申します

右ノ内一列ヲカ、ゲテ、餘ハ兒童ニ工夫セシム。

(ロ) 而シテ尙注意スベキコトハ、此手紙ヲ受ケル人が自己ト對等ノ人タルコトヲ常ニ念頭ニオカザルベカラズ。

(ハ) 一節宛區分シ、優等兒二三名ヲシテ話述セシム。一同之ヲ批評ス。ソノ時新教授ヲ要スベキ語句アラ

バ、之ヲ教授スベキコト、

(例) しばらくお目にかかりませんが、

- (二) 龜山や香山園は申すに及ばず、等
文ノ主體トナルベキ用事ノ話述ニ入ラバ、ナルベク念ヲ入ルベキコト、
- 該項ニ至リテハ、男女ニヨリテ話述内容ノ異ナルベキハ、主トシテ(1春の時候のよいことをのべる)ノ述ベ方ニアルヲ以テ、ソノ時ハ先ヅ一方ニハ工夫ヲ命ジオキ、一方ヨリノ始末スベキコト、
- (ホ) 全項ノ通語及其批評(男女ニヨル話述形式ノ相違ニ注意ス)。

(終結)

此ノ時間ニハ記述スルコトガ出來ザル故、先ヅ要項ヲ固ク記憶シオクベシ。而シテ、各自次ノ時間迄ニ充分言語練習ヲナシオクベキコトヲ要求ス。

第二時ノ事業

- 一 要項ノ復習(雜記帳ヲ出サシメ、之ニカカシム)。
 - 二 話述復習(千篇一律トナラザル様、注意スルコト)、
 - 三 文字及語句教授(質問ニモ應ズルコト)
 - 四 草稿用紙ニ記述セシム。
 - 五 自己訂正ノ要求 教師ニ差シ出サシム。(終結)
- 第三時ノ事業

- 一 草稿返附(課外ニ朱正シタルモノ)、
- 二 點讀推究セシム。質問セシム。
- 三 一般批評ヲナス。
- 四 讀ミ方練習(暗誦スル程度マデヲ要求ス)。
- 五 狀紙及封筒ニ清書セシム。……蒐集檢閱後返附
- 六 本題全部終結(カクシテ得タル男女成績ノ優秀ナルモノ各一個ヲ添フ)

五十三

香川縣師範學校

尋常科第三學年口語體書簡文教案

教材

文案 ごちそうになつたお禮

目的 馳走ニナリタル禮ヲ述ベシムルニアリ。

教法

- 一 場合ノ假定
キノフノ休(正月休)ニ、友人ノ宅ニテ種々ノ遊ビヲナジ、其ノ上ゴチソノニナリタルニツキ、今日ハ其ノ禮狀ヲ作ラントシテ文題ヲ板書ス。

二 準備

次ノ各項ニヨリテ思想ヲ整理ス。

- 1 イ 如何ニ此ノ手紙ヲ綴リテ可ナルカヲ問ヒ、二三名ヲシテ答ヘシム。

□ 遊びたるあとでごちそうになつたこと(板書)ニツキテ、如何ニオ禮ヲイフベキカラ考ヘシム。又此ノ時遊ビタル狀況ノ特ニ面白カリシコトヲ述ベシム。

- 2 ながみにてれいをいふこと(板書)ニツキテ、不得止用事ノ爲自身ニ行キテ御禮ヲ申シ難キニツキ手紙ヲ以テ、御禮ヲ述ブルコトヲ綴ラシム。

三 記述

草稿帳ニ記サシム。

注意事項

- 1 平假名ニテ書スルコト、
 - 2 机間巡視ヲ行ヒテ兒童ノ知ラザル文字ヲ授クルコト
- 次ノ時間

教材

文題 ごちそうになつたお禮、

目的 範文ヲ示シテ自己訂正ヲナサシム。

教法

口語體書簡文に關する教案

- 1 前日ノ成績悪シカリシニヨリ、先ヅ其ノ大體ノ形式ヲ授ケン爲ニ、教師範文ヲ讀ム。

- 2 範文ヲ板書シテ自己訂正ヲ行ハシム。

- 3 範文ヲ草稿帳ニ記入セシム。

範文トシテ兒童ニ示ス文次ノ如シ。

きのふは、まねりまして、おじやまをいたしました。そのうへ、ごちそうになつて、ありがたうございました。その時お見せくださいました、きれいなぶや、めづらしいおもちやのことを、かへって妹や弟に話しましたらたいそ、よろこんで、こんどの日曜日には、どうでも、いっしょになつていってくださいといひました。すぐ、おれいにもなるのですが、すこし、よーじがございましてまぬられませんか、手紙でおれいを申し上げます。

梅田一郎

一月十三日
春野文吉様

- 4 宛名、年月日、自己ノ姓名等ヲ書セシム。
但シ宛名ハ學級ニテ得セシム。

五十四

愛媛縣師範學校

尋常科第四學年口語體書簡文ノ教授案一例。

教材

物を借りにやる文。

目的

借用文に必要な條件の選擇、及び其の排列順序を會得せしめ、以て借用文の作法、並に其の應用練習に力む。

教程

第一時は、主として必要條件の選擇と、排列、及び一二の練習に力め、第二時は、主として類題練習と、認方の練習とを行はんとす。

教具

新聞紙三四種、少年少女の雜誌二三種、教科書二三冊とを準備す。

教法

(1) 豫備

左の事項を問答す。

- 一 兒童の家庭に於て購讀せる新聞の種類、
- 二 各種の新聞は其記事同じからざること、
- 三 時に借覽の必要を生ずること、
- 四 目的指示、

(2) 提示

第一步||問答によりて、借用文に必要な條件を選擇し、左の如く順次板書す。

もの名

海南新聞。

數量

明日の朝まで。

ことば

きのふのと、けふのと。

第二步||右選定各條件を如何に排列して表出すればよきかを口誦せしめ、問答によりて、左の如く序列せしむ。

- 一 ことば、(の一部) 申しかねますが、おかし下さい。
- 二 物、名 海南新聞。
- 三 數量 きのふのとけふのと。
- 四 期限 あすの朝まで。
- 五 ことば、 おかし下さい。

第三步||右排列順序により、左の如く板書し、兒童をして、口誦せしめたる後、筆記帳を出して視寫せしむ。

申しかねますが、海南新聞、きのふのとけふのとを、あすの朝までおかし下さい。

(3) 練習

第四步||雜誌二三を示し、一二の問答を試み、後一種を出して、之を借る時の口誦練習をなし、兒童をして記述(練習帳に)せしむ。

檢答は必要條件と排列順序とに注意す。

第五步||書物の一冊を示して、之を借るとききの練習を試む。

第六步||教具、板書消去後、左の事項を問答して退場。

一 物を借る時に云ふべき大切な事柄は何々か。

二 その述べる順序は。

三 例へば(既習の文暗誦)

(をばり)

五十五

長崎縣師範學校

第三學級尋常第三學年男女國語綴り方教授案

題目

火事みまひ (一時間一回)

目的

見舞狀形式ノ一班ヲ授ケ、兼テ友人ノ災難ニ遇ヘルトキニ對スル同情心ヲ喚起セムトス。

教材

1 出所 偶發事項

2 案文

きのふ、わたくしどもが、書きかたのせいしよをしてみましたところが、ふと火事だといふことをききました、たいそ、おどろきました。そのうへ、あなた様のおうちといふことが、しれましたときには、からだかふる

ひ出して、せいしよもできませんくらぬでございました。みなさまには、どんなに、ごんばいなさいましたでせう。しかし、おかげがございました。めで、しあはせてございました。ちよつと、おみまひ申します。

宛 名

二月十六日

土曜ノ四時

何

某

方法

一 文題指示

先ヅ問答ニヨリ、見舞狀ヲ發スベキコトヲ知ラシム。

1 皆サンガ知ッテ居ル通り、昨日磯貝ミすみサンノウチニ火事ガゴザイマシタデセウ。ソレニツイテ皆サンハ磯貝サンヲドウ思ヒマスカ。||ソレナラドウセネバナラスト思ヒマスカ。

2 今日ハンノ御見舞ノ手紙ヲ書クコトヲ稽古シマセウ

二 思想喚起

左ノ問答ニヨリテ思想ヲ喚起ス。

1 昨日火事ガアリマシタトキハ、アナタガタハ、何ラシテキマシタカ。

2 フト、火事ダトイフコトヲ聞イタトキニハ、ドウアリマシタカ。

3 ソノ上磯貝サンノウチダト聞イタトキニハ……

- 4 磯貝サンノオウチデハ、ドンナニアツタラウト思ヒマスル。
 - 5 磯貝サンノオウチニハ、オケガナドハゴザイマセンデシタカ。
 - 9 ソレデ皆サンハ、ドンナニ御見舞ノ辭ヲイッタラ、ヨイデセウカ。
- 三 發表練習
數名ノ兒童ニ口述セシム。
- 四 記述
各自草稿帳ニ記述セシム。
- 五 批正
各自記述ノモノノ中ヨリ、一文ヲ取りテ板上批正ヲ行ヒ、他ノモノハ時間外ニ訂正シテ返附ス。

五十六

長崎縣女子師範學校

尋常科第四學年國語綴方教授案(豫定二時間)

文題
例文

春にはなりましたが、この二三日前の寒さは、ことにきびしくございました

た。それで、友だちには、こよすを伺ひましたら、おち様には、さきころから、御病氣といふことで、まことにおどろき入りました。どうぞ、こよーじよーなさいまして、早くこぜんかいになりますよーにいつて居ります。じつは、おまひにあがるはずですけども、毎日學校でおそくなりますから、いづれ、この土曜日はとまりがてら、おまひにあがらうと思つてをります。こぶれいでございますが手紙で御みまひ申し上げます。

目的

病氣見舞ノ文ノ認メ方、及ビ尙一般ノ見舞ノ文ノ認メ方ヲ知ラシム。

方法 (指導法)

- 1 目的指示
今頃ノ時候ノコトヨリ誘導シ、文題ヲ板書シテ指示ス。
- 2 整理
A 問答
イ 此手紙ノ文ニツキテ、一番大事ナコトハ何事デスカ。(主眼點)
ロ 何ノタメニ見舞ヲスルモノデスカ……………
ハ 此手紙ノ文ニ限ラナイガ、一體手紙ノ文ハ何事ニ注意スレバヨイデセウカ、……………文字ヲ綺麗ニ書クコトハ……………
- ニ 今一ツキメテ置クコトハ、病氣ノコトハ誰ニキイ

タトシマセウ……………(友ダチ)

ホ 手紙ノ初ニハ、何ト書キマセウ……………時候ノコトハドンナニ……………

ヘ 次ニ何事ヲ……………友達ニ聞イタトキハ、ドンナニアリマシタカ……………何ト書イタラヨイデスカ、言ツテゴランナサイ……………

ト ソレカラ何事ヲ……………容體ノコト……………養生ヲススメル(續ケテ言ツテ見ナサイ)

チ コレデ書クコトハナイデスカ。(暫時默考)

リ ナゼ見舞ニハ行カナイデ、手紙ヲアゲマスカ……………又 ソレナラ、此手紙ヲアゲタママデ、此上モナク喜バレマセウカ……………先生ハ土曜日カラ泊リガテラ行クコトニシテハドウカト思フ。(發表熱ヲ盛ニス)

ル 先ツ此位デヨイデセウカ。終ニハ何ト書キマセウ。

B 獨語
以上ヲ尙整理スルタメ、低聲ニテ獨語セシム。(要項ハ板書セリ)。

3 記述
一 氣呵成思フ存分ニ、丁寧ニ記述セシム。(卷紙)記述中ハ干渉セズ。

4 處理

イ 自己處理(主眼點)

主眼點ヲ落シテキナイカ。脱字、誤字、重複ノ所ハナイカ、明瞭ニ書イタコトヲカツケルカ。

ロ 相互處理

ハ 膝下處理

(出來得ル限り、時間中ニ行フ。他ハ折ヲ見テ行フ)。

第二回

ニ 總評

一般ニ誤リタル所ハ、小黑板ニテ示シ、其正否ヲ確ム。

又文ノ妙ヲ得タル所アラバ之モ同様。

ホ 各自ノ綴リタル文ヲ一二回通讀セシメ、誤レル點ナドヲ尙十分ニ確メシム。

ヘ 數人ヲ指定シテ朗讀セシム。

ト 例文ヲ書取法ニヨリテ清記セシメ、文章語句ノ吟味ヲナシ、一般ノ見舞文ニツキ注意ヲ與フ。

チ 熟讀セシム。

五十七

福岡縣師範學校

尋常科第六學年級方教案

題目

病友を慰むるに物を貸與ふ文

教材

實際的教材

形式上 對話體貸與文 記述(前文(先方ノ安否)本文(用事)末文(止メ書き))
内容上 友情的處世材料 病容、繪端書ブック貸與、希望

目的

友情的處世材料ニヨリ、對話體貸與文ノ練習ヲナスニアリ。

準備

繪端書ブック二冊、

教法—誘導法

一 豫備

(1) 問答

先日ハ皆ト小林君ヲ見舞タガ、其後見舞タ人ガアリマスカ。(餘程快方)
病人ヲ慰ムルニハ、見舞ニ行ク外、如何ナル事ガアリ

マスカ。

皆サンノ中ニ繪端書ブックヲモツテキル人ガアリマスカ。

(2) 目的指示

繪端書ブックヲ示シツ、文題提出ヲナス。

二 思想整頓

- (1) 記述形式問答 (2) 内容問答(ブックノ内容)
- (3) 話方練習(二回) (4) 用語問答(文例中ニ線ヲ引ケルモノ)
- (5) 文例朗讀(場合ニヨリ除ク)

三 發表

- (1) 腹案 (2) 記述(此間机間巡視個人指導)

四 處理

- (1) 相互簿上訂正(早記述者) (2) 相互朗讀訂正(教師ノ簿上訂正ハ課外トス)。

同、文例

君の御病氣は、その後、日にましく、近頃は、適度の御散歩もできる様子で何よりけつこうに思ひます。ついでには、幸、此度、台灣にある兄の許から同地生蕃の人情、風俗等をうつした繪端書ぶつくと、二冊送つて來ましたから、君の御病氣中のおなぐさみにもと思つて、とりあへず右二冊を御貸し申します。はなはだ粗末な物ではありますが、御心地のよい折々にゆつくりと御らん下さい。實は、私が御伺ひかたが持参いたすつもりでございましたが、何分ひまをえないので、使を以て失禮いたします。敬白

五十八

福岡縣女子師範學校

尋常科第三學年

目的

招待文として記述すべき事項、及その順序の整頓をなしたる後、兒童に綴らしむ。

題目

運動會にをばを招く文

教材

要項 時 場所 思想上の主眼
模様

おいでください、待ち居ること……手紙の上の主眼

文例

あした朝の八時から學校の運動場で本校とふぞくといっしょにうんどうが
いがありますからどうぞ見においでください。いろいろおもしろいめづら
しいたいそうや、いうきなどがあります。ふみ子さんもおや子さんもおつ
れになって、おいでください。お待ち申しておます
五月二十六日
なば様
しづ子より

二時間

教法

(一) 目的指示(明日の運動會につきて、その盛大なる有様を豫想せしむ)。

親戚、をばを案内する手紙を書かんことを告ぐ。

(二) 思想整頓 (要項板書)

- 1 伯母様にどうしてもらふ手紙か。
- 2 どういったら、來て観てくださるだらうか。どうぞ観においでください。(手紙の主目的)
- 3 そればかりでよいか。何時あるかわからぬ。
- 4 いつ頃かわからなければ、をば様はお困りになる。(思想の要點) それだけでよいか。
- 5 どこであるか知らしてやらんでも、をば様はお困りになるまいか。(思想の要點)
- 6 もうそれだけで、をば様は來たいと思はれやうか。運動會のまよう
- 7 もやうのあらましを知らせてやったら、伯母様はきつとお出でになるに違ひない。……をば様ばかり來ていたいか。

ふみ子さんもあや子さんも、
さうしたら、伯母様もふみ子さんもあや子さんも、
みんなさぞ喜ばれるだらう。

(三) 腹案

要項によりて二二三の兒童に話方をなさしめたる後各自に
腹案せしむ。

(四) 記述

一意専心記述せしめ、終らば自己添削をなさしむ。

(五) 批正

第二に於て板書批正をなす。

備考

本法は綴方の中堅にして、最も廣く行はるゝ法なり。而し
て自作に至る豫備として、屢々行ふことあり。

注意

(一) 整理の際、干渉に過ぎて、兒童の思想を束縛するが如
きことあるべからず。指導の中にも、兒童に自由活動の
餘地を存せしむべし。

(二) 腹案の際は、談話練習多きに過ぎて、兒童の思想を束縛
するが如きことなからしむべし。

五十九

大分縣師範學校

高等第三年第二學期第七週

題目

葉書の認め方

(豫定二教時)

教材

一 「冒険世界」を送り來れる禮に乗ねて「くらすの花」を送
る葉書。

備考 「くらすの花」は學級毎月發行の綴りものにして綴
方、書方、圖畫、雜報等の諸欄あり兒童雜誌なり。

二 牧村の親類より、田地買入を周旋し來れるを斷る葉書
(代筆)

三 暫く音信を怠りたる親族に、祖父の七回忌法事の案内
をする。

葉書、祖父の旨を書き添ふ。(代筆)

四 奉天戰模擬演習の様子を遠方の友に報ずる葉書。

目的

現在に於て、自己所用の書信にても、他人より頼まれたる
書信にても、造作なく間に合せ得るの能を養ふ。

區分

第一次 教材一、二重要な個所批評誘導。

第二次 第一次、成績の批評、教材三、四の練習、整理。

第一次

教材

教材一、二

準備

墨壺、葉書帳、(葉書練習として、特に私製したる本校所定
のもの)教材二の往信葉書

方法

一 目的指示

注意

1 葉書の認め方

イ 住所氏名

□ 本文は消さぬ事書入れぬ事、

ハ 本分が葉書の半分にも足らぬ様の事なき事(文字の
大小問
隔)

2 時間制限、一枚の葉書十三分以内

二 教材一につき

1 文題提示

口語體書簡文に関する教案

注意(冒険世界を送り來りたりと想像し
て、空想雜語を送ると假定せしむ。)

2 自作 机間巡視、早く出來たるもの膝下批評

3 批評

1 認め方の速度、

2 文字の確否、書信の主要點、

次題に注意を促す。

三、教材につき、

1 目的指示(代筆せしむる旨)

2 事項提供

イ 親類より來れる葉書を一、二生に讀ましむ。

□ 返事の要點提示

1 金の都合でこの期を見合せる 依頼を受けたりと想像せ
しむ。
2 都合よく書いて下さい。

備考

往信の葉書の表には次の如くあり。

大分町勢家 後藤新太郎様 朗讀したるものなれど

東大分村字牧 牧 安造 大きく板書す

3 記述

机間巡視、劣等生誘導、批評材料蒐集、

4 批評

朗讀批評、一部摘出批評
批評主點

- イ 周旋に對する禮の述方
- ロ 要點指示との關係
- ハ 斷り方

備考

課外檢閲

第二次

教材

前時批評。教材三、四、整理。

準備

墨壺、葉書帳、

方法

一 前時批評

- 1 通じたる缺陷による。

イ 要點の不明、

ロ 宿所氏名の認め方體裁、

注意の喚起、

二 教材三につき、

- 1 事項提供

イ 祖父の七回忌の法事、本月二十五日、其の案内

ロ 祖母が忠夫(外孫)を見たいと言つて居るから、連れる様に書き添へて、

ハ 近頃不沙汰であつた其のわびも、

(この通り言ひて、葉書を頼まれたりと思はしむ)。

注意

宛名は畑中(大分町)佐藤忠次郎

頼みたるものは 後藤新太郎

兒童の發問を待ち
て後にそれに應ず
始めより示さず

- 2 記述

- 3 批評

イ 日、時、案内の仕振、

ロ 書き添へ方

ハ 挨拶の言葉の位置

注意

教材二との比較、代筆、整理、

イ 用事の要點は決して落さぬ事

ロ 言葉の順序

三 教材四につき、

- 1 目的指示

2 簡潔、口語、常體、なるべき旨の注意

3 沈思

4 自作、机間巡視批評(下書を一寸なさしめてもよろし)。

5 批評

イ 短句調の力

ロ 短文の修飾法

四 葉書の認め方整理

1 短文に思想を纏むる事、

2 要點を逸せざる事、

3 短時間に出来べき事、

4 體裁に注意する事、

備考

課外檢閲 甚しきもの課外膝下批評、

六十

佐賀縣師範學校

高等第一學年教案及文例

題目

法會に人を招く文

目的

法會文の記述法を知らしめ、招く文の形式の修練をなす。

方法

- 1 目的指示

實際の場合を話し必要を感せしむ。(簡単に)

2 整頓

イ 如何なることを記述すべきか。

ロ 詳細なる實際の話(時刻、客)

ハ 項目の排列

ニ 各自復演

3 發表

4 處理

イ 簿上處理

ロ 再訂正

ハ 形式の確立的練習

文例

手紙を以て申し上げます。さて来る二十日は、亡き母の一週期にあたりますから、生前御實際の方々をお招き申しまして心ばかりの法會をいたすつもりであります
わざわざお招き申しましても粗酒などあげるくらゐであります。午後二時ころ、おいで、ください

ことに親しく願ってゐました方のおいででは、亡き靈も、さぞ、喜ぶこと
と思ひますから、ひとへに待ってゐます。敬白
四月五日
武富秀人殿机下
須古正美

六十一

熊本縣師範學校

尋常科第四學年國語科(綴方)教授案

題目

わが學級を去りし友人に近狀を知らす文

文例

だいぶんすすしくなりました。ひさしく、手紙もさしあげませんでしたがおかひりは、ごさいせんか。私は、あひかはらず、たっしやでぬます。第四學級のものも、みんな、げんきで、先生の教へを受けてなりました。學科もだんだんすすんで、たたいま、ちよーど、讀み方では寒暖計のところ算術では、珠算や諸筆算を習つてゐます。九月十八日には、池田校の四年生の人たちと、いっしょに三角旅行をしました。いろいろ、おもしろいことや、めづらしいことがありましたが、中にも、五その舟に乗って燈台を見に行った時のゆかいさは、今に、わすれられません。もし、あなたがおもしろひましたら、いっそゆかいであつたらうと思ひます。これから、しだいに寒くなつてまゐりますから、おからだをおだいじになさませ。

目的

指導法ニヨリ、思想ヲ整理シ、後、敏速ニ記述セシメ、能

フ限り批正ヲ加フルニアリ。
方法 指導法

第一 出題

- 1 ワガ學校ヲ去リシ、兒童ノ氏名を問フ。
- 2 右兒童、離別前ノコトヲ問答シ、友人ノ互ニ相忘レガタキヲ思ハセ、進ンデ本文ヲ綴ラント欲スル情ヲ喚起シテ出題セントス。

第二 思想整理

- 1 記述事項ヲ問答ス。
- 2 問答ノ結果ヲ板書スルコト凡ソ左ノ如シ。
- 3 板書事項

◎友だちに近ごろのありさまを知らせる手紙。

一 まへおき 時候のあいさつ

じぶんはどんなにしてゐる。

第四學級のものはどんなにしてゐる。

たたいま學校ではどんなものを習つてゐる。(讀み方では)

近ごろあつたおもしろいこと(三角旅行中であつたこと)

一ばんゆかいであつたこと。

三 むすびめいめいのかんがへ。

4 出來ルダケ短ク、始メヨリ終リマデ各自ニ一回獨語

サス。

5 各項毎ニ人ヲカヘテ一回發表サス。

第三 記述

1 次ノ注意ヲ與ヘテ記述ニカ、ル。

イ 文體ハ口語ノ崇敬體、

ロ 假名ハ平假名、

2 一人ハ板上ニ他ハ綴方練習帳ニ、一氣呵成、思フ存

分ニ書カシム。

3 此ノ際教師ハアマリ干渉セズ。

第四 批正

1 綴リ終リシモノハ、必ズ自己訂正ヲナサシム。

2 自己訂正ヲ終リタルモノハ、膝下訂正ヲ乞ハシム。

(其數約十名)

3 其ノ他ノモノニハ、交換批正ヲナサシム。

4 一定ノ仕事(學級ニテ定メアル)ヲ終リタルモノハ、自由ニ出デ、板上文ノ訂正ヲナス。

5 一般ニ訂正終リシヲ見テ練習帳ヲ集ム。

(但し膝下訂正ヲ施シタル分ハ之ヲ省ク)。

6 然ル後全兒童ニテ板上文ノ批正ニカ、リ、之ヲ完成

口語體書簡文に関する教案

シテ本時間ヲ終ル。

以上

附言

○集メタル成績物ハ、次ノ時間マデニ、規定ノ評號ヲ附シテ返ス。

○次ノ時間ニ於ケル仕事ハ左ノ如シ。

教師

1 成績優等ナモノヲ二三讀ミキカス。

2 一般缺點ニ注意ヲ與フ。

3 各自評號ノ處理ヲナス。

即評號ヲ見テ自己添削ヲナス。

兒童 4 遂ニ自己添削ヲナシ能ハザリシトコロハ、評號ヲ附シタルモノニツキ、其ノ理ヲ問フ。

5 處理ヲ完ク終リタル後、清書帳ニウツス。

六十二

鹿兒島縣師範學校

尋常科第三學年

題目

病氣みまひ

目的

見舞文の様式を知らしめ、親みある言葉の使用になれしむ。

方法

形式を與へ、内容を工夫せしむ。

- 1 讀本の本文を讀ましむ。
全文の趣旨及結構を吟味す。(復習的)
- 2 友達の病氣中にやる手紙をつくることを指示す。
- 3 各自工夫獨語せしむ。
- 4 用語に對して、次の注意を喚起す。
(1) 親しき間に交換するものなること、
(2) 同情的文字の入るべきこと、
- 5 記述、
- 6 共同批評訂正、
其の順序
- 1 順序は正しいか、
- 2 言葉は同情が表はれて居るか。
- 7 應用として大風見舞、火事見舞等口頭的發表をなさしむ。

六十三

沖繩縣師範學校

尋常科第六學年綴り方教案

教材

1 文題

舊師に送る手紙

2 文例

近頃はとりわけ寒くなりましたが先生御きげんよくお過ごしでしょうか。私も元氣で勉強してゐますから御安心下さいませ。年月のたつのは誠に早いものでうひと月ばかりすると私たははいよいよ尋常科を卒業することになります。これは先生の御かげでまことにありかたう存じます。

かゝるに、只今はだいたいな時でありますから同級生は皆りつぱに卒業しようとなじめに勉強してゐます。ことに、だれだれさん達は、このたび中學校の入學試験をうけようと、一しよけんめいに勉強して居ります。

私はこの度は高等科で勉強して來年受けるつもりであります。先生どうぞ今後とも相かはらず御教へ下さることを願ひます。

まだずいぶん寒うございますから御身御大事になさして下さい。まづはお見まいまで。さやうなら。

目的

「舊師に送る手紙」ヲ口語體ニテ綴ラシメ、兼テ舊師ニ對スル作法ヲ知ラシム。

準備

手紙ノ認メ方(天地左右等)ヲ示セル小黑板。

方法

1 目的指示

左記ノ事項ヲ問答シタル後、今日ハ諸子ガカカル舊師ニ送ル手紙ヲ認メ、出來アガッタラ愈、送ルベキヲ告グ。

イ 卒業間ギハノ狀況

□ 舊師ガ諸子ヲ思フノ情

2 思想整頓

問答ニヨリテ、大體左記ノ如ク思想整頓ヲナシ、暫時腹案ヲ立テシメタル後記述ニ移ラシム。

イ 前文(御見舞

卒業)

先生のおかげ

□ 本文(勉強のもやう

自分のこと

おねがひ

ハ 末文(御身御大事にして下さい

3 記述

口語體、平假名ニテ書クコト、書キ方等注意ヲナシテ、直ニ卷紙ニ書カシム。其間教師ハ机間ヲ巡視シテ發表ヲ助ク。

4 批正

イ 教師ノ文例朗讀

□ 兒童ノ文案朗讀 (數人)

ハ 處理 (集メテ批正ヲナス)

口語體書簡文に関する調査報告終

明治四十四年四月十四日印刷
明治四十四年四月十八日發行

口語體書簡文に關する調査報告

定價 金四拾五錢

文部省內

編纂者 國語調査委員會

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

發行者 株式會社 國定教科書共同販賣所

右代表者 大橋 新太郎

東京市牛込區板町七番地

印刷者 渡邊 八太郎

東京市牛込區板町七番地

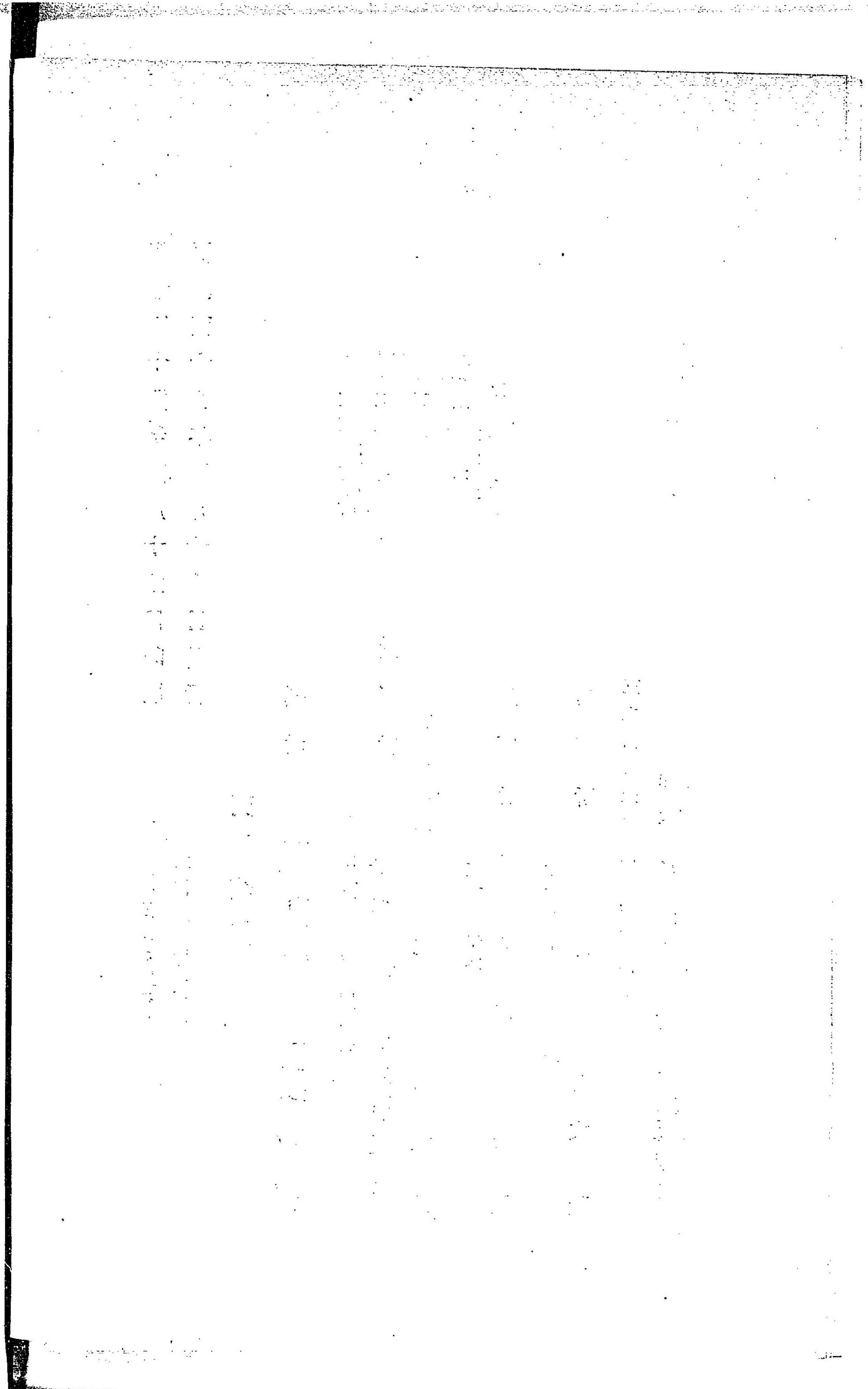
印刷所 日清印刷株式會社

東京市日本橋區新右衛門町

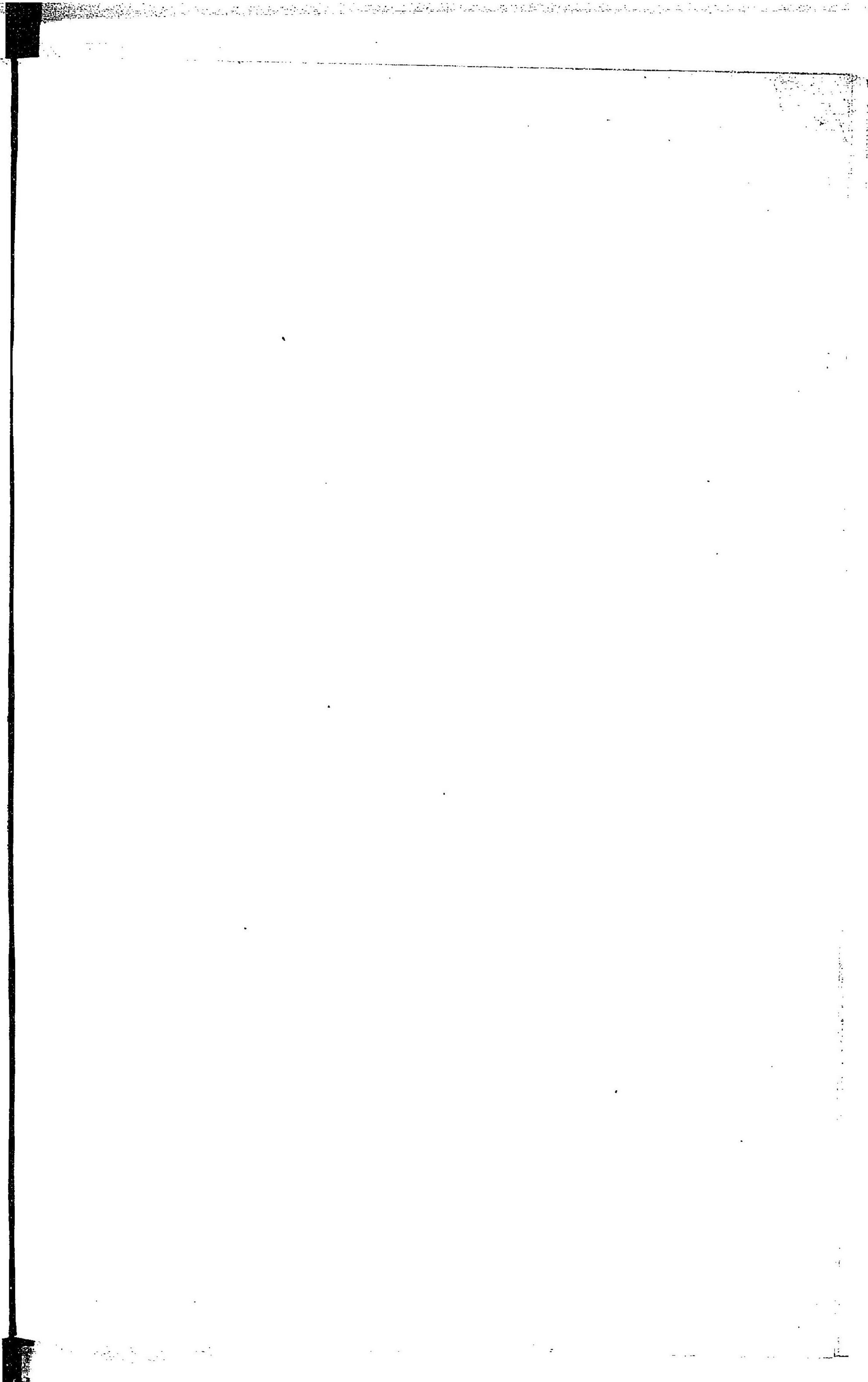
發行所

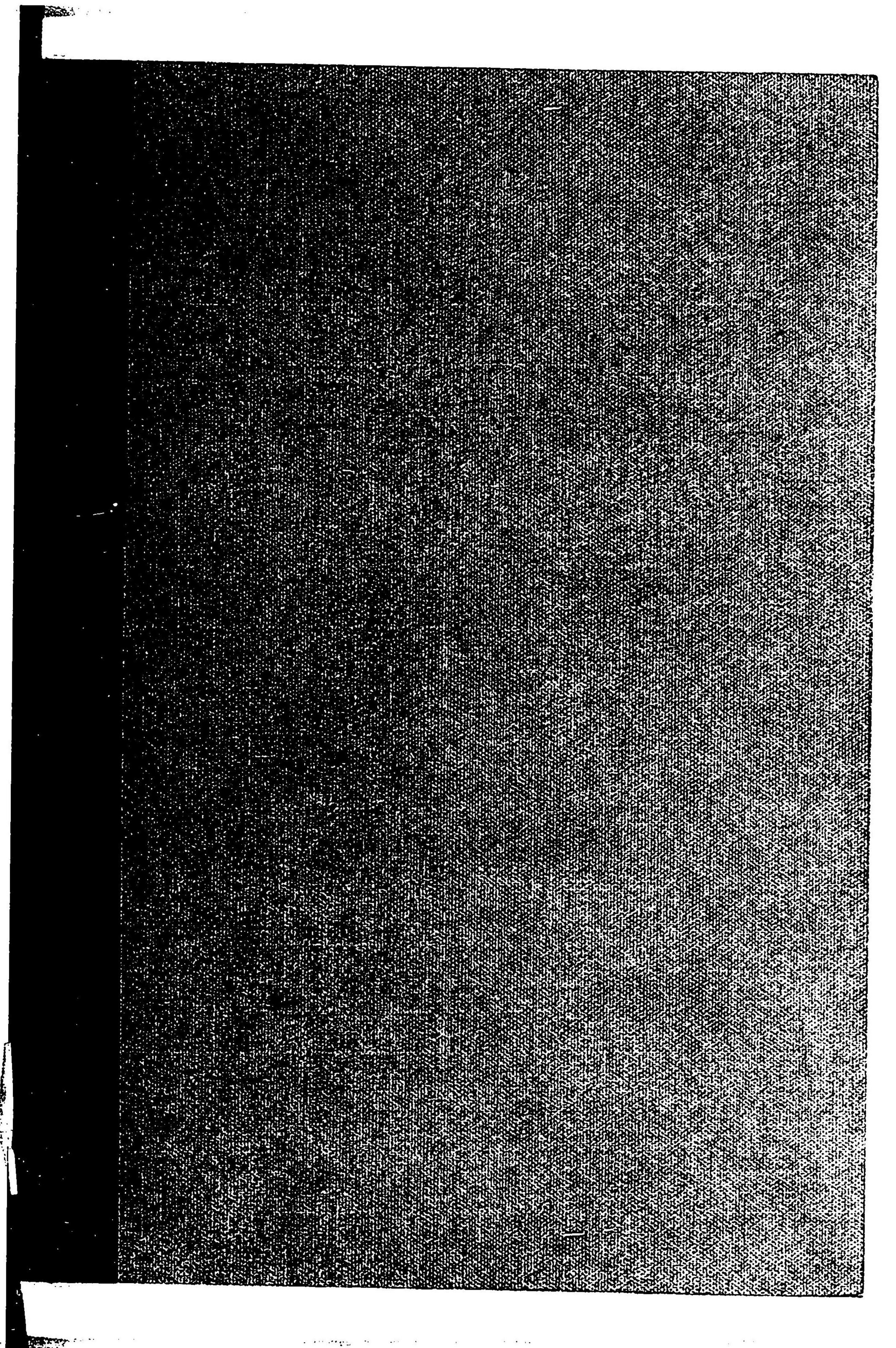
株式會社 國定教科書共同販賣所





1774





816.6
K65472k

079973-000-7

816.6-K65472k

口語体書簡文に関する調査報告

国語調査委員会 (文部省内) / 編

M44

DAC-4089

